

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	論理国語		必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>①知識・及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	「論理国語」(大修館書店)	副教材 (出版社)	「文学国語セレクション」(東京書籍)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
授業での活動	○	◎	◎
学習履歴	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<p>・実用的な文章を読むことを心がけ、論理的文章に積極的に触れるようにしてください。</p>

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方）	1	
	○相手を意識して書く 「贈り物」としてのノブレス・ オブリージュ」	6	【知】相手に応じた適切な表現を理解することができる。 【思】語彙の難易度やニュアンスに注意して書くことができる。 【主】「やさしい日本語」の理解を深めようとしている。
5	○対比表現 「ネットワーク上のコミュニケーション」	8	【知】対比的な論じ方や具体的例の意図を捉え、論旨をつかむことができる。 【思】体面とネットワーク上でのコミュニケーションの差異について考えることができる。 【主】対比した表現に注目して読もうとしている。
6			
7	○現代小説に親しむ 「鞆」	4	【知】場面や登場人物の設定における特徴を捉えることができる。 【思】作中の「短編小説」が象徴するものについて考えることができる。 【主】寓話の構成への理解を深めようとしている。
8	○結果を分析・考察する 「共感覚と比喻」	10	【知】横書きの形式や、注、参考文献の示し方を理解することができる。 【思】日常言語を客観的に分析する視点を持ち、言語感覚を豊かにしようとしている。
	【前期期末考査】	1	【主】調査結果を適切かつ効果的に用いて文章にまとめようとしている。
9			
10	○近現代文学に親しむ 「ころ」	10	【知】人間の関係性と心情を的確に捉えることができる。 【思】人の心のありようについて考えを深めようとしている。 【主】近代文学への興味関心をもって本文を読もうとしている。
11	○テーマの具体化・焦点化	6	【知】テーマを具体化・焦点化し、掘り下げることができる。 【思】分析をもとに、考察を深め解決案を提示することができる。 【主】テーマを掘り下げ、考えを深めようとしている。
12	○文学作品への理解 「文学の未来」	8	【知】本文中における引用の役割を押さえて筆者の主張を理解することができる。 【思】文学の意義について理解を深めようとしている。 【主】「文学の意義」について興味関心を持とうとしている。
1	○自由に考えて書く	9	【知】これまでの学習で身につけたことを用いて、自分の意見を書くことができる。 【思】「自分が学びたいと思っていること」について、自分の考えを書くことができる。 【主】テーマについての学びを深めようとしている。
2	【学年末考査】	1	
3			
		64	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3	国語	古典探究		必履修・必修・ 選択 ※文学国語との選択	2
科目の目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考、判断、表現)</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)</p>				
教科書 (出版社)	『古典探求 古文編』 『古典探求 漢文編』(大修館)	副教材 (出版社)	『読んで見て覚える 重要古文単語 315[三訂版]』(桐原書店) 『体系古典文法[九訂版]』(数研出版) 『漢文必携』(桐原書店)		
留意点	○国公立大学等の受験で「古典」が必要な人は、必ず「古典探究」を選択してください。 ○2年次「古典探究」からの継続選択です。			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	◎	○
ワークシート		○	◎	◎
提出物		○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

1年次に購入している『体系古典文法』『重要古文単語 315』『漢文必携』を使用します。また、タブレットを使用します。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	①オリエンテーション ②説話『今昔物語集』馬盗人	2 4	②【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること 【主】読み物として説話を楽しみ、説かれている内容を読み取ろうとする
5	③漢詩『桃天』	5	③【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解する 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える 【主】時代背景を読み取りながら、詩の表現や内容を読み味わう
6	④物語『堤中納言物語』虫めづる姫君	8	④【知】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解する 【思】古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりすること 【主】自分なりの解釈をもって物語を読み深め、考察を共有し合う
7	⑤漢文『春夜宴桃李園序』	7	⑤【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える 【主】作品について、作者の意図を組みながら理解を深めようとする
8	⑥日記『紫式部日記』和泉式部と清少納言	8	⑥【知】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解する 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】時代背景や人物の理解から、作品の意図や内容を味わおうとする
9	⑦物語『源氏物語』葵の上と物の怪	10	⑦【知】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解する 【思】古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりすること 【主】壮大な物語の広がりを楽しみ、読み物としての面白さについて着眼しようとする
10	⑧史伝『刎頸の交わり』	10	⑧【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】歴史的な背景を理解し、成立背景などから古代中国の物語を楽しもうとする
11	⑨思想『過猶不及』『子路問君子』『兵者、不祥之器』	5	⑨【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解する 【思】古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること 【主】古代中国の思想について、現代思想と照らし合わせながら考えを深めようとする
12	⑩俳諧『笈の小文』	5	⑩【知】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解する 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】日本文化としての詩を鑑賞し、当時のものの感じ方を捉えようとする

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3	国語	古典探究		必履修・必修・選択 ※文学国語との選択	2
科目の 目標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。(知識及び技能)</p> <p>(2)論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。(思考、判断、表現)</p> <p>(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。(主体的に学習に取り組む態度)</p>				
教科書 (出版社)	『精選 古典探求』(大修館)	副教材 (出版社)	『読んで見て聞いて覚える 重要古文単語 315[四訂版]』(桐原書店) 『読解をたいせつにする体系古典文法[十訂版]』(数研出版) 『基礎から解釈へ 漢文必携[五訂版]』(桐原書店)		
留意点	○国公立大学等の受験で「古典」が必要な人は、必ず「古典探究」を選択してください。 ○2年次「古典探究」からの継続選択です。			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	◎	◎
提出物	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

1年次に購入している『体系古典文法』『重要古文単語 315』『漢文必携』を使用します。また、タブレットを使用します。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	①オリエンテーション ②説話『今昔物語集』馬盗人	2 4	②【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること 【主】読み物として説話を楽しみ、説かれている内容を読み取ろうとする
5	③漢詩『桃天』	5	③【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解する 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える 【主】時代背景を読み取りながら、詩の表現や内容を読み味わう
6	④物語『堤中納言物語』虫めづる姫君	8	④【知】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解する 【思】古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりすること 【主】自分なりの解釈をもって物語を読み深め、考察を共有し合う
7	⑤漢文『春夜宴桃李園序』	7	⑤【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える 【主】作品について、作者の意図を組みながら理解を深めようとする
8	⑥日記『紫式部日記』和泉式部と清少納言	8	⑥【知】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解する 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】時代背景や人物の理解から、作品の意図や内容を味わおうとする
9	⑦物語『源氏物語』葵の上と物の怪	10	⑦【知】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解する 【思】古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりすること 【主】壮大な物語の広がりを楽しみ、読み物としての面白さについて着眼しようとする
10	⑧史伝『刎頸の交わり』	10	⑧【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】歴史的な背景を理解し、成立背景などから古代中国の物語を楽しもうとする
11	⑨思想『暴虎馮河』『過猶不及』『兵者、不祥之器』	5	⑨【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解する 【思】古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること 【主】古代中国の思想について、現代思想と照らし合わせながら考えを深めようとする
12	⑩俳諧『俳句』	5	⑩【知】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解する 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】日本文化としての詩を鑑賞し、当時のものの感じ方を捉えようとする

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	文学国語	-	必履修・必修・ 選択 ※古典探究との選択	2
科目の 目 標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>①知識及び技能 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現等 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	新編文学国語（大修館）	副教材 (出版社)			
留意点	<p>○国公立大学等の受験で「古典」が必要な人は、必ず「古典探究」を選択してください。</p> <p>○2年次「文学国語」からの継続選択です。</p>			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしている。
思考・判断・表現	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げ深めようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
授業での活動・課題提出	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・読書をこころがけ、積極的に論理的文章・文学作品に触れるようにしてください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション①	1	
5	○心を見つめる 「クルミの小部屋」	5	【知】 文体の特徴や比喩の効果について考えることができる。 【思】 筆者の家族観や、家族間の心情の機微を読み取ることができる。 【主】 会話の特徴について考えることができる。
6	○小説を楽しむ 「おぼろ月」	5	【知】 重要語句、文法等を理解することができる。 【思】 登場人物の考え方や生き方について、時代背景をふまえて考えることができる。 【主】 特徴的な表現に注目しながら作品を読み味わうことができる。
7	○古典の世界1 「若紫」	8	【知】 重要語句、文法等を理解することができる。 【思】 登場人物の設定や描写の仕方をとらえ、読みを深めることができる。 【主】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えることができる。
8	○文化を感じる 「共感と驚異」	5	【知】 筆者の主張を理解するために、短歌の知識を理解することができる。 【思】 筆者の考える、短歌が人を感動させるための方法を読み取ることができる。 【主】 引用された作品を読み、筆者の主張を確かめることができる。
9	【前期期末考査】	1	
10	○短歌・俳句に親しむ	6	【知】 短歌・俳句についての理解を深めることができる。 【思】 形式や表現に注意して短歌・俳句を読み味わうことができる。 【主】 できごとや心情を工夫して表現することができる。
11	○小説を味わう 「離さない」	10	【知】 表現上の特色について理解することができる。 【思】 作品の状況設定を的確にとらえ、寓意性を読み取ることができる。 【主】 登場人物の描写から、場面ごとの心情の変化を読み取ることができる。
12	○古典の世界3 「能登殿最期」	6	【知】 重要語句、文法等を理解することができる。 【思】 能登殿の描かれ方をとらえ、読みを深める。 【主】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えることができる。
1	○古典の世界3 「四面楚歌」	8	【知】 重要語句、文法等を理解することができる。 【思】 漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取ることができる。 【主】 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えることができる。
	○文学を生み出す 「私たちの黄色」「タイムリミット」	8	【知】 作品の共通点を読み取ることができる。 【思】 さまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取ることができる。 【主】 構成・展開や心情・情景描写などの表現を工夫することができる。
	【学年末考査】	1	
2			
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	保健体育	体育		必履修・必修・選択	2
科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。				
教科書(出版社)	現代高等保健体育(大修館書店)	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識及び技能	運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけているか。
思考力・判断力・表現力等	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけているか。
学びに向かう力・人間性等	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか。

(2) 評価方法

観点	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実技テスト・ゲーム	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・評価の際には、2の(1)に記載の3観点を同等に取り扱うものとする。 ・運動が苦手でも一生懸命取り組み、各種目の特性や自己の技能について探究し、発見した課題の解決に向けて考えること。 ・運動が得意でも、仲間との体力や技能などの違いに配慮し、仲間全員が運動に親しめるよう、よりよい環境づくりに主体的に取り組むこと ・体調に応じて運動量を調整したり、仲間や相手の体力や技能の程度に配慮したり、用具や場の安全を確認するなどして、自他共に怪我のないように心掛けること。 ・領域選択Ⅱ期とⅢ期は同一種目を選択することはできない ・体育理論の授業においては保健の教科書を使用する。

4 年間指導計画(評価の観点)

月	学習内容(単元名)	時数	評価の観点(抜粋)
4	オリエンテーション	1	「体づくり運動」 【知】体を動かす楽しさや心地よさを味わい、継続的な運動の計画を立て、実生活に役立てることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、
	1「体づくり運動」	6	
	2「体育理論」	3	
5	3「球技<ネット型> (バレーボール)」 「球技<バースポール型>(ソフトボール)」	10	「体育理論」 【知】豊かなスポーツライフ設計の仕方について理解している 【思】課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝えようとしている 【学】主体的に学習に取り組んでいる
6	4「球技<ネット型> (ソフトテニス)」 「球技<ネット型> (バドミントン)」	10	「球技<ゴール型>」 【知】状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって、空間への侵入などから攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
7			「球技<ネット型>」 【知】状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
8	5「領域選択Ⅰ期」 ・球技<ネット型> (バレーボール)	10	
9	・球技<バースポール型> (ソフトボール) ・陸上競技		「球技<バースポール型>」 【知】状況に応じたバット操作と走塁での攻撃、安定したボール操作と状況に応じた守備などによって攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、フェアプレーを大切にしている
10	6「領域選択Ⅱ期」 ・球技<ゴール型> (バスケットボール) ・球技<ネット型> (バドミントン) ・球技<ネット型> (卓球)	10	「武道(柔道)」 【知】相手の動きの変化に応じて、得意技や連絡技を用いて相手を崩して投げたり、抑えたり、返したりするなどの攻防をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、伝統的な行動の仕方を大切にしている
11	・武道(柔道) ・「ダンス」		
12	7「領域選択Ⅲ期」 ・球技<ゴール型> (バスケットボール) ・球技<ネット型> (バドミントン) ・球技<ネット型> (卓球) ・武道(柔道) ・「ダンス」	10	「ダンス」 【知】ダンスの多様な楽しさや喜びを味わい、その文化的背景と表現の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、それぞれ特有の表現や踊りを身に付けて交流や発表をすることができる 【思】下記※1 参照 【学】下記※2 参照、互いに共感している
1			※1 生涯にわたって運動を豊かに継続するための自己や仲間の課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて取り組むとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる
2	8「体育理論」	3	※2 主体的に取り組んでいる、互いに助け合い高め合おうとしている、合意形成に貢献している、一人一人の違いに応じた動き・課題・挑戦を大切にしている、健康・安全を確保している
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	英語	英語コミュニケーションⅢ	-	必修・必修・選択	4
科目の 目 標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の5つの領域において言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 聞くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、話される速さや、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、話の展開に注意しながら必要な情報を聞き取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(2) 読むこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用される語句や文、情報量などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、文章の展開に注意しながら必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 話すこと [やり取り]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、課題の解決策などを論理的に詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(4) 話すこと [発表]</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを論理的に詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(5) 書くこと</p> <p>ア 日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ 社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、聞いたり読んだりしたことを基に、多様な語句や文を目的や場面、状況などに応じて適切に用いて、情報や考え、気持ちなどを複数の段落から成る文章で論理的に詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>				
教科書 (出版社)	LANDMARK Fit English Communication Ⅲ (啓林館)		副教材 (出版社)	LANDMARK Fit English Ⅲ Workbook (啓林館)	
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について聞くこと、読むことを通して、その内容を捉える技能を身に付けている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを、論理的に詳しく伝える技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取り、話や文章の展開や話し手及び書き手の意図、概要、要点、詳細を捉えている。また、それらの話題などについて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けたり、課題の解決策などを論理的に詳しく伝えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手、聞き手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト・リスニングテスト 等		◎	○	○
定期考査・ワークシート・パフォーマンステスト 等		○	◎	○
学習観察・提出物・授業や課題への取り組み		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・言語活動に取り組む態度を持ち、授業は主体的に活動して、異国の文化を学んでください。
- ・この授業は習熟度別展開授業で実施されます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション Lesson for Presentation、Lesson 1	1 12	（使用教材や授業の進め方） （知）お勧めの店の発表を英語でできる。 （思）お勧めの店の発表原稿で概要や要点を説明する。 （主）相手が理解しやすいようにお勧めの店の発表ができる。
5	Lesson 2	12	（知）関心のある地域について、論理的に詳しく書いて伝える。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	【前期中間考査】	1	
6	Lesson 3	12	（知）献血についての情報や考えを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 4	12	（知）関心を持ったバイオミクスについて、情報や考えなどを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
7	SDG' S08 【前期期末考査】	2 1	
8	Lesson 5	12	（知）日本におけるポリティカルコレクトネスについて、情報や考えなどを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
9	Daily English Around You①	2	（思）（主）エシカル消費について、情報や考えなどを論理的に詳しく話して伝えたり、伝え合ったりする。
10	Lesson 6	12	（知）町の災害対策について、情報や考えなど論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	【後期中間考査】	1	
11	Daily English Around You②	2	（知）（思）町の観光パンフレットを作るにあたり、情報や考えなどを論理的に詳しく書いて伝える。
	Lesson 7	12	（知）中途障害者から学んだことについて、情報や考えなどを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 8	12	（知）奇跡的な出来事について、情報や考えなどを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
12	Daily English Around You③ Lesson 9	2 12	（知）世界的な水危機への対処方法について、情報や考えなどを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 10		（知）言語とアイデンティティーについて、情報や考えなどを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
1	Daily English Around You④	2	（知）現代の日本人は幸福かどうかについて、情報や考えなどを論理的な文章で書ける。 （思）自分の考えを相手が理解しやすく伝える。 （主）自分の考えを相手に理解しやすく伝えようとしている。
	SDGs 10 Optional Reading 1 Optional Reading 2	6	（思）（主）〈話すこと [発表・やり取り]〉 企業の社会的責任や、就職先としての企業選びの観点について、 情報や考えなどを論理的に詳しく話して伝えたり、伝え合ったりする。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	地理歴史	地理探究	D	必履修・必修・ 選択	3
科目の 目 標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。「学びに向かう力、人間性等」</p>				
教科書 (出版社)	新詳地理探究 (帝国書院)	副教材 (出版社)	新詳地理探究演習ノート (帝国書院) 最新地理図表GEO (ジオ) (第一学習社)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解し、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義を、特色や相互の関連を系統地理的、地誌的に考察する。地理的な課題の解決に向けて構想する。考察、構想したことを効果的に説明する。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	◎	○
ワークシート		◎	○	◎
学習観察		○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

選択F地理探究(4単位)と合わせて履修することはできません。
大学入学共通テストを中心とした大学入試に対応できる力を付けます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	<p>第1部 現代世界の系統地理的考察</p> <p>第1章 自然環境</p> <p>第2章 資源と産業</p> <p>第3章 交通・通信と観光，貿易</p> <p>第4章 人口，村落・都市</p> <p>第5章 生活文化，民族・宗教</p>	<p>18</p> <p>18</p> <p>5</p> <p>8</p> <p>8</p>	<p>【知】自然環境、資源・産業、交通・通信・観光・貿易、人口・村落・都市、生活文化・民族、宗教に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。</p> <p>【思】自然環境、資源・産業、交通・通信・観光・貿易、人口・村落・都市、生活文化・民族、宗教に関わる諸事象について、場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主】自然環境、資源・産業、交通・通信・観光・貿易、人口・村落・都市、生活文化・民族、宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
	<p>第2部 現代世界の地誌的考察</p> <p>第1章 現代世界の地域区分</p> <p>第2章 現代世界の諸地域 東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、アフリカ、EU諸国、ロシア、アメリカ合衆国 ラテンアメリカ、オセアニア</p>	<p>1</p> <p>33</p>	
	<p>第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像</p> <p>第1章 持続可能な国土像の探究</p>	<p>5</p>	

【知】いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。

【思】現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。

【主】現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

【知】現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。

【思】現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。

【主】持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	英語	Advanced English	D	必履修・必修・ 選択	3
科目の目標	<p>1 知識及び技能 英語を聞いたり読んだりするために必要な単語熟語、英文の読み方、聞き方などを理解できる。聞いたり読んだりしたことを踏まえ、自らの考えを発信、表現するために必要な知識及び技能を修得する。</p> <p>2 思考、判断、表現 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現する能力を養う。</p> <p>3 主体的に学習に取り組む態度 英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づいて自らの考えを発信、表現しようとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	2025 大学入学共通テスト対策・オリジナル問題 共通テスト 英語プレノート Reading 80 分 共通テスト 英語リスニングプレノート		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	英語を聞いたり読んだりするために必要な単語熟語、文法、英文の読み方、聞き方などを理解できる。聞いたり読んだりしたことを踏まえ、自らの考えを発信、表現するために必要な知識及び技能を修得することができる。
思考・判断・表現	学んだことを踏まえ、論理の展開に気をつけながら読んだり聞いたりすることができる。聞いたり読んだりしたことを踏まえ、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えようとするすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	学んだことを踏まえ、論理の展開に気をつけながら読んだり聞いたりすることができる。聞いたり読んだりしたことを踏まえ、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えようとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査	○	○	
課題提出	○	○	○
授業観察			○
パフォーマンステスト	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・復習を忘れずに行い、分からない単語、文法は確認しておくこと。 ・大学進学向けの授業を展開します。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	共通テスト英語プレノート 第1回～第4回	23	(1) 英語を読む力が定着しているか。 ア 文構造の理解 イ 文法の強化
5	前期中間考査	1	
6	共通テスト英語リスニングプ レノート	23	(2) 英語を話す力が定着しているか。 ア 英会話 イ 慣用表現の強化
7	第1回～第3回		
8			(3) 英語を聞く力が定着しているか。 ア 綴りと発音の理解
9	前期期末考査	1	イ さまざまな状況下の英語理解
10	共通テスト英語プレノート 第5回～第8回	23	(4) 英語を書く力が定着しているか。 ア 語彙の強化 イ 構文の定着
11	後期中間考査	1	
12	共通テスト英語リスニングプ レノート	24	
1	第4回～第6回		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	英語	Standard English	D	必履修・必修・ 選択	3
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、医療現場を想定した専門用語や接遇会話などの学習を通して実社会でのコミュニケーション能力を伸ばし、社会生活において活用できるようにする。				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	<ul style="list-style-type: none"> • Mileage Reader 4 New Edition (いっすな書店) • BIG DIPPER ENGLISH GRAMMAR in 25 STAGES (数研出版) 		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な英単語や英文法を理解し、長文読解をすることができる。 • 医療現場で使用される専門用語や、日常会話で用いられる表現の定着度を評価する。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> • 基本的な英単語や英文法を理解し、様々な問いや課題に対して自分の考えを書いたり話したりすることができる。 • 日常会話や医療現場を想定した場面で専門用語や接遇会話などを習得し、適切にコミュニケーションをする能力を評価する。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> • 学習した英単語や表現、文法事項を生かして、自分の考えや相手の考えを理解しようとしたり、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとしたりする態度を評価する。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	○
ワークシート、パフォーマンステスト	○	◎	○
学習観察、提出物	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> • 1年次、2年次の基礎の復習を行う。 • 医療・看護学校進学を考える生徒にも対応した授業を行う。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点	
4	(1) 英語を読む力 ア 文構造の理解 イ 文法の強化	24	(知) 英語の長文を読むために必要となる文法を理解している。また、医療系学校の試験問題を読解することができる。	
5			(思) 英文の構造を理解しながら英語の長文を読解し、内容を正しく理解している。 また、その長文の内容に対して自分の考えを持ち、英語で表現することができる。	
6			(主) 主体的に英文法を学び、英語の長文の内容に対して自分の考えを積極的に英語で書いたり話したりして表現しようとしている。	
7			(2) 英語を話す力 ア 英会話 イ 慣用表現の強化	(知) 日常の場面で使われる易しい英語の慣用表現や医療現場で使用される専門用語を理解している。
8				(思) 日常の場面で使われる優しい英語の慣用表現や医療現場で使用される専門用語を用いて、ALTや教員、生徒同士で様々な場面で適切なコミュニケーションをすることができる。
9				(主) 学習した内容を用いて、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとしている。
10	(3) 英語を聞く力 ア 綴りと音の理解 イ さまざまな状況下の英語理解	24	(知) 英語での会話や、短い英文を聞いて内容を理解するために、音のつながりや紛らわしい発音の違いを理解している。 また、会話でよく用いられるイディオムや語法を理解している。	
11			(思) 比較的易しい英語を用いた様々な場面での会話や、短い英文を聞いて内容を理解し、状況の比較や図の読み取りなどができている。	
12			(主) 学習した内容を用いて、積極的に英語を聞き取ろうとしている。	
1	(4) 英語を書く力 ア 語彙の強化 イ 構文の定着	24	(知) 自分の考えを英語で書いたり、ある程度まとまった英文の要約文を書いたりするために、基本的な英語の構文や英単語を理解している。 医療系学校の入学試験問題で問われやすい英単語や表現を理解している。	
			(思) 基本的な英語の構文や英単語を用いて、様々な問いや社会課題に対して自分の考えについて理由を含めて書くことができる。 また、ある程度まとまった英文を読み、要約文を作成することができる。 医療系学校の入学試験問題で問われやすい英単語や表現を理解し、問題を解くことができる。	
			(主) 学習した内容を用いて、積極的に英語を用いて自分の考えを書いたり、要約文を作成したりしようとしている。	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	公民	社会常識	D	必履修・必修・ 選択	3
科目の目標	<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想・議論し、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	整理&演習 基本ワーク 社会 (増進堂・受験研究社)		
留意点	特になし			開講 予定人数	特になし

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	現代の諸課題の解決に向けて探究する手掛かりとなる概念や理論などについて理解しているとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や概念・理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し説明しているとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想・議論を行って公正に判断し合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしているとともに、積極的な役割を果たそうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査	○	○	
単元毎の課題			○
グループ/ペアワーク (ワークシート)	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 学習内容は、中学校卒業程度（一般常識）の地歴公民科の知識の復習と活用を主とし、特定分野に特化はしない。 大学進学へ向けた高度な内容は取り扱わない。 アクティブラーニングを適時実施する。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	<p>【① 公民的分野】</p> <p>1 人権と民主主義</p> <p>2 日本国憲法</p> <p>5 3 国会・内閣・裁判所・三権分立</p> <p>4 地方自治・選挙</p> <p>6 5 資本主義経済</p> <p>6 国民経済</p> <p>7 7 金融・財政・社会保障</p> <p>8 国際社会</p>	3 6	<p>【① 公民的分野】</p> <p>1 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めているとともに、諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>2 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p>
8	<p>【② 歴史的分野】</p> <p>9 日本史①</p> <p>10 日本史②</p> <p>9 11 日本史③</p> <p>12 世界史①</p> <p>10 13 世界史②</p> <p>14 世界史③</p> <p>15 思想・文化史</p> <p>16 人物史</p>	3 4	<p>3 現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を身に付けているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めている。</p>
11	<p>【③ 地理的分野】</p> <p>17 日本地理①</p> <p>18 日本地理②</p> <p>12 19 世界地理①</p> <p>20 世界地理②</p> <p>1 21 日本と世界の結びつき①</p> <p>22 日本と世界の結びつき②</p>	2 6	<p>【② 歴史的分野】</p> <p>1 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>2 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p> <p>3 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を身に付けている。</p>
			<p>【③ 地理的分野】</p> <p>1 我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。</p> <p>2 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。</p> <p>3 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を身に付けているとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするものの大切さについての自覚などを深めている。</p>

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3	国語	国語教養	D	必履修・必修・ 選択	3
科目の 目 標	<p>言葉による見方・考え方を働かせ、小説など文学に触れることで、論理的に作品世界を読解し、読書体験を通して自分の考えを深め、伝えられるようにする。</p> <p>①知識・及び技能 文学作品の理解に必要な語彙を身につける。文学史の知識を身につける。</p> <p>②思考、判断、表現 文学作品を論理的に読解し、読書体験を通して自分の考えを深め、自分の意見や感想を伝えられるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	高校生のための近現代文学ベーシック ちくま小説入門改訂版		
留意点	定期テストは行わず、小テストや発表活動で評価を行います。			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	文学作品の理解に必要な語彙が身についたか。文学史の知識が身につけようとした。
思考・判断・表現	文学作品を論理的に読解し、読書体験を通して自分の考えを深め、自分の意見や感想を伝えようとした。
主体的に学習に取り組む態度	読書に親しみ自己を向上させ、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとした。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
小テスト・発表活動	◎	◎	○
学習観察		◎	◎

3 履修上および学習上の注意

・年間を通して文学作品を深く読み込みます。個人で考察し、それを共有し、レポートを書くなどします。自分の考えをクラスで共有する活動が主となることを承知しておいてください。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション （使用教材や授業の進め方）	1	【小説1】【小説2】
5			
6			
7	小説1	1 2	(知) 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 (思) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。
	小説2	1 2	(主) 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。
	小説3	1 2	
	小説4	1 1	【小説3】【小説4】 (知) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。 (思) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。
8	小説5	1 1	(主) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察し、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えようとしている。
9			
	小説6	1 0	【小説5】【小説6】 (知) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。 (思) 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。
10			
	小説7	9	(主) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察し、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈しようとしている。
11			
	小説8	9	【小説7】 (知) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。 (思) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。
12			
1	小説9	9	(主) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 【小説8】 (知) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。 (思) 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。 (主) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。 【小説9】 (知) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。 (思) 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。 (主) 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察し、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	理科	物理	E	必履修・必修・選択	4
科目の目標	(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。 (2) 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。 (3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。				
教科書(出版社)	物理(数研出版)	副教材(出版社)	リードα 物理基礎・物理(数研出版) ※2年次から継続		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解できた。 科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けた。
思考・判断・表現	物理学の基本的な概念や原理・法則を用いて思考できた。 観察、実験などを行い、科学的に探求する力を身に付けた。
主体的に学習に取り組む態度	物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	○	◎	◎
観察・実験	◎	◎	◎
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・大学入学共通テストや大学の二次試験などに対応できる学力を身につける。
- ※大学入学共通テストを「物理基礎」で受験する生徒に向けた授業ではありません。
- ・2年次の必修選択科目「物理基礎」と選択A「身のまわりの力学」を履修していなければ選択できません。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第2編 熱と気体 ○気体のエネルギーと状態変化 ・気体の法則 ・気体分子の運動 ・気体の状態変化	9	【知】 ボイル・シャルルの法則、理想気体の状態方程式、気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導く、気体の状態変化を p - V 図や式で表すなどの基本的な概念や原理・法則を理解できた。 【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
5	第3編 波 ○波の伝わり方 ・波と媒質の運動 ・正弦波の式 ・波の伝わり方 ○音の伝わり方 ・音の伝わり方 ・音のドップラー効果	7 6	【知】 波が伝わるようすをグラフで表現することができた。正弦波の式を正しく表すことができた。定在波が生じるしくみ、水面波の干渉の条件、波の反射・屈折の法則を理解できた。 【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。 【知】 音の干渉条件を理解できた。ドップラー効果の式を用いて観測者が聞く音の振動数を求めることができた。 【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
6	○光 ・光の性質 ・レンズと鏡 ・光の干渉と回折 【前期中間考査】	12	【知】 光の反射、屈折、分散、散乱、干渉の際に成り立つ法則を理解できた。レンズと鏡によって生じる像の作図、写像公式を用いて像のできる位置や像の大きさなどを求めることができた。 【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
7 8	第4編 電気と磁気 ○電場 ・静電気力 ・電場 ・電位 ・物質と電場 ・コンデンサー	11	【知】 電気量保存の法則やクーロンの法則、電場、電位について理解し関係式を正しく適用できた。コンデンサーの性質を理解し、基本公式を正しく適用できた。 【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
9	○電流 ・オームの法則 ・直流回路 ・半導体 【前期期末考査】	9	【知】 オームの法則をはじめとする基本式を適切に使用できた。半導体ダイオードやトランジスターのしくみとはたらきについて理解できた。 【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。
10	○電流と磁場 ・磁場 ・電流のつくる磁場 ・電流が磁場から受ける力 ・ローレンツ力	7	【知】 磁場について理解できた。電流がつくる磁場、フレミングの左手の法則、ローレンツ力について理解できた。 【思】 理解できた原理・法則を用いて思考できた。 【主】 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。

	<p>○電磁誘導と電磁波</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導 ・交流の発生 ・直流回路 ・電磁波 	12	<p>【知】さまざまな電磁誘導の事例を理解し、自己誘導や相互誘導などの関係式を適用できた。コイルと抵抗を含む回路、交流電流、交流電圧の式を理解できた。</p> <p>【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。</p> <p>【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。</p>
11	<p>第5編 原子</p> <p>○電子と光</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子 ・光の粒子性 ・X線 ・粒子の波動性 <p>○原子と原子核</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原子の構造とエネルギー準位 ・原子核 ・放射線とその性質 ・核反応と核エネルギー ・素粒子 <p>【後期中間考査】</p>	8	<p>【知】放電および陰極線について理解できた。電子の比電荷、電気素量の導出について理解できた。光の波動性と粒子性、物質波について理解できた。</p> <p>【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。</p> <p>【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。</p>
		7	<p>【知】ボーア理論について理解できた。放射性崩壊によって原子核がどのように変化するか理解できた。結合エネルギーの定義を理解し、核反応によって放出されるエネルギーを求めることができた。素粒子の分類について理解できた。</p> <p>【思】理解できた原理・法則を用いて思考できた。</p> <p>【主】物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を身に付けようとした。</p>
12 1	○復習及び問題演習	40	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	理科	生物	E	必履修・必修・ 選択	4
科目の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な実験など基本的な技能を身に付けるようにする。 データの見方などの科学的に探究する力を養う。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う 				
教科書 (出版社)	生物(東京書籍)	副教材 (出版社)	※2年次から継続		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生物現象の原理・法則を理解している。基本的な実験方法を理解している。
思考・判断・表現	データから仮説を、仮説から確認方法を導くことができる。
主体的に学習に取り組む態度	授業中の積極的に発表を行い、理解するために主体的に取り組む。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	◎	
ワークシート・レポート	○	◎	◎
学習観察	○	○	◎

3

履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストや大学の二次試験などに対応できる学力を身につける。 ※大学入学共通テストを「生物基礎」で受験する生徒に向けた授業ではありません。 化学分野が含まれるので、原則、2年次の選択科目「生物概論」を履修していること。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1 編 生物の進化 3 章 生物の系統と進化	12	<ul style="list-style-type: none"> 種と種名，階層的分類について理解する。 霊長類の特徴について理解する。 霊長類の進化と系統についての理解を深める。 ヒトの出現について理解する
5	2 編 生命現象と物質 1 章 細胞と物質	11	<ul style="list-style-type: none"> 化学の基礎知識について理解する。 生体膜のはたらきと構造について理解する。 電子顕微鏡写真から，細胞小器官を探し，作用について考える。 アミノ酸の構造，タンパク質の構造について理解する。
6			<ul style="list-style-type: none"> 基質濃度と反応速度の関係について理解する。 生体膜での物質の輸送について理解する。 チャンネル，担体，ポンプのはたらきについて理解する。
7	2 章 代謝とエネルギー	12	<ul style="list-style-type: none"> 化学反応とエネルギーについて理解する。 代謝と ATP について理解する。 呼吸の反応経路と反応の場について理解する。 発酵と呼吸の違いについて理解する。 光合成反応の過程と反応の場について理解する。
8	3 編 遺伝情報の発現と発生 1 章 遺伝情報とその発現	12	<ul style="list-style-type: none"> DNA の二重らせん構造について理解する。 セントラルドグマについて理解する。
9	2 章 発生と遺伝子発現	12	<ul style="list-style-type: none"> RNA の構造と種類，おもなはたらきについて理解する。 突然変異とアミノ酸配列について理解する。 原核、真核生物の基本的な転写調節について理解する。
10	3 章 遺伝子を扱う技術	8	<ul style="list-style-type: none"> 細胞分化と遺伝子発現について理解し、考える。 動物の体の形を決める遺伝子について理解する。 クローン技術や PCR 法などについて理解する。 遺伝子を扱う技術の光と影について理解を深める。
11	4 編 生物の環境応答 1 章 動物の刺激の受容と反応	11	<ul style="list-style-type: none"> 情報の伝達と反応について理解する。 動物が，さまざまな刺激を受容器によって受容していることを理解する。
11	2 章 動物の行動	12	<ul style="list-style-type: none"> 行動発現のしくみについて理解する。 行動に関わる電気・化学的なきみについて理解する。
11	3 章 植物の環境応答	11	<ul style="list-style-type: none"> 種子から枯死までの植物の一生について、その生理的なきみを考える。
12	5 編 生態と環境 1 章 個体群と生物群集	9	<ul style="list-style-type: none"> 個体群内の個体どうしの関係や，異なる個体群どうしの関係があることについて理解する。 個体群密度の考え方とその測定方法について理解する。
12	2 章 生態系の物質生産と循環	10	<ul style="list-style-type: none"> 生態系全体のエネルギーの流れについて理解する。 遺伝的多様性の定義について理解する。
1	3 章 生態系と人間生活	5	<ul style="list-style-type: none"> 生態系の多様性の定義について理解する。
	総復習	3	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	地理歴史	日本史探究	E	必履修・必修・ 選択	4
科目の 目標	<p>①近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p> <p>②近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>③近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>				
教科書 (出版社)	日本史探求詳細日本史（山川出版）	副教材 (出版社)	日本史探究 詳細日本史ノート（山川出版）		
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・わが国の歴史の展開に関する基本的な事柄を、世界史的視野に立って、わが国を取り巻く国際環境などと関連づけて理解している。
思考・判断・表現	・歴史の事象や歴史の構造に課題を見出し、分析したり、総合的に考えたり、科学的に思考したりできている。
主体的に学習に取り組む態度	・意欲的に探求すると共に、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする態度を身につける努力をしている

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	○
ワークシート	○	◎	○
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・大学入学共通テストを中心とした大学入試に対応できる力を身に付ける。
- ・2年次履修の「歴史総合」を土台にした科目で難易度はかなり高い。よって一般教養を身につける目的での履修は推奨しない。
- ・高い学習意欲を持って授業を受けることのできる生徒の履修が望ましい。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 日本文化のあけぼの	7	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。
	第2章 古墳とヤマト政権	7	地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。
5	第3章 律令国家の形成	7	律令国家が成立するまでの政治過程について考察する。
	第4章 貴族政治の展開	7	
6	第5章 院政と武士の躍進	7	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。
	第6章 武家政権の成立	7	鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。
7	第7章 武家社会の成長	7	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。
	第8章 近世の幕開け	7	江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。
8	第9章 幕藩体制の成立と展開	7	農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。
9	第10章 幕藩体制の動揺	7	国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。
	第11章 近世から近代へ	7	明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。
10	第12章 近代国家の成立	7	東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。
	第13章 近代国家の展開	7	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。
11	第14章 近代の産業と生活	7	戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	7	戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。
12	第16章 占領下の日本	8	独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。
	第17章 高度成長の時代	7	ドルニショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。
1	第18章 激動する世界と日本	8	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	地理歴史	世界史探究	E	選択	4
科目の目標	<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり、解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的にまとめる技能を身に付けようとする。【知識及び技能】</p> <p>(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。【思考力、判断力、表現力等】</p> <p>(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。【学びに向かう力、人間性等】</p>				
教科書(出版社)	詳説世界史(山川出版社)	副教材(出版社)	授業用詳細世界史整理ノート(山川出版社)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解しているとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	○	○
ワークシート		○	◎	○
学習観察		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストを中心とした大学入試に対応できる力を身に付ける。 2年次履修の「歴史総合」を土台にした科目で難易度はかなり高い。よって一般教養を身につける目的での履修は推奨しない。 考査の範囲は1回につき教科書80ページ程度になる。高い学習意欲を持って授業を受けることのできる生徒の履修が望ましい。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第Ⅰ部 第1章 文明の成立と古代文明の特質	12	1.主な古代文明の立地について考察し、文明が生まれるために必要だった条件を理解する。 2.南アジア最古の文明であるインダス文明が栄えた場所の特徴を理解する。
5	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	17	1.新たに現れた「皇帝」の特質について、それまでの「王」と比較しながら理解する。 2.東南アジアにおける国家形成の特徴を多面的・多角的に考察し表現する。
6	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	15	1.ローマ帝国が危機を迎えた要因を多面的・多角的に考察し表現する。 2.キリスト教の成立の経緯を理解している。 1.イスラーム政権の多極化が社会に与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。 2.西ヨーロッパに特有の封建社会のしくみについて理解する。
7	第Ⅱ部 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	10	1.イスラーム化が中央アジアにもたらした変化について理解している。 2.十字軍やモンゴルの進出が西アジアにもたらした影響について考察し表現している。 1.封建社会が解体に向かった背景を多面的・多角的に考察し表現する。
8	第8章 東アジアの展開とモンゴル帝国 第9章 大交易・大交流の時代	10	1.10世紀前半に東アジアで政権の交代が相次いだ背景や、そこで成立した諸国の共通点を理解する。 1.ヨーロッパの人々が遠洋に乗り出していった動機や背景を多面的・多角的に考察し表現する。 1.オスマン帝国の基礎が築かれた経緯を理解する。 2.ムガル帝国の衰退の背景や要因を多面的・多角的に考察し表現する。
9	第10章 アジアの諸帝国の繁栄 第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	16	1.多方面に及ぶルネサンスの成果が後世に与えた影響を理解する。 2.カトリック改革が持つ世界的な意義を多面的・多角的に考察し表現する。
10	第Ⅲ部 第12章 産業革命と環大西洋革命 第13章 イギリスの優位と欧米国民国家の形成 第14章 アジア諸地域の動揺	16	1.16世紀に始まった「世界の一体化」とイギリス産業革命との関係について理解する。 2.ナポレオンの支配に対する人々の反応を多面的・多角的に考察し表現する。 1.19世紀イギリスの政治改革の特徴について、大陸諸国と比較したうえで理解する。 1.清朝の危機の要因を多面的・多角的に考察し表現する。 1.帝国主義の支配を受けた地域における社会や文化の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 2.日清戦争と日露戦争が中国及び東アジアに与えた影響を多面的・多角的に考察し表現する。
11	第15章 帝国主義とアジアの民族運動 第16章 第一次世界大戦と世界の変容	16	1.第一次世界大戦後の新たな国際秩序が形成された経緯を理解する。 1.世界恐慌が起こった背景やその影響を多面的・多角的に考察し表現する。 2.戦後の国際秩序がいかなる構想の下で形成されたのかを理解する。 1.米ソのそれぞれの同盟網の広がりや核開発競争の経緯を理解する。 2.自立化を追求するアジア・アフリカの新興諸国がいかなる行動をとったかを理解する。
12	第17章 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成 第18章 冷戦と第三世界の台頭	10	1.経済成長を伴う先進諸国の政策・社会の変化を多面的・多角的に考察し表現する。 2.今日の国際関係の特徴と、必要とされている協力の内容を多角的・多面的に考察し表現する。
1	第19章 冷戦の終結と今日の世界	6	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数学	数学探究 α	G	必履修・必修・ 選択	4
科目の目標	数学Ⅰ・Aに関わる課題について、多様な考え方により解決を図ることができることに気づかせるとともに、数学を積極的に探究する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	チェックノート 数学Ⅰ+A (数研出版)		
留意点	特になし			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能や推論の方法を身につけている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 主に看護学校進学希望者を対象として、数学Ⅰと数学Aを受験に活用する生徒が履修すること。 受験に必要な実践力を高めることが目標であるため、2年生のうちに数学Ⅰおよび数学Aの既習事項を復習しておく必要がある。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 数と式	12	【知】数と式、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
5	第3章 2次関数	23	【思】関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。
	第5章 データの分析	10	【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
	第7章 図形の性質	12	【知】図形と計量、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
7	第4章 図形と計量	16	【思】図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質や計量について論理的に考察することができる。
8			【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
9	【前期期末考査】	1	
	第2章 集合と命題	10	【知】集合と命題や場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
10	第6章 場合の数と確率	22	【思】不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。
			【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
11			
	【後期中間考査】	1	
12	総合問題	20	【知】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
			【思】問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。
1			【主】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	芸術（音楽）	総合音楽	E	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の幅広い活動を通して、生徒が個性を生かしながら思いや意図をもって表現したり味わって鑑賞したりする力を育成し、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。 音や音楽が醸し出すよさや美しさなどを感じ取り、そこに価値を見いだせる感性を養う。 音や音楽を知覚・感受して、思考・判断し表現する音楽活動の過程を通して、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音環境への関心を高め、音楽の知的財産権を尊重する態度の形成を図る。 中学校音楽科の学習を踏まえ、楽曲固有のよさや美しさなどを味わうだけでなく、文化的・歴史的背景など広い視野で音楽を捉えて、我が国及び諸外国の音楽文化への理解を深める。 				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	自作のプリント・楽譜など		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<p>【知】 様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。</p> <p>【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。</p> <p>【知】 曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。</p> <p>【技】 曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。</p> <p>【技】 姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p>
思考・判断・表現	<p>音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。音色、旋律、テクスチャ、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成などを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、歌唱や器楽表現としてどのように表すかについて表現意図をもっている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>親しみやすいJ-POPの歌の二部合唱、音楽を幅広く様々な視点から捉えようとするに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。西洋音楽の源流を中世からルネッサンスの音楽の鑑賞と文化的・歴史的背景の学習で辿ることに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>器楽アンサンブルや合唱の発表、独唱のテストに関心をもち、主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	○		○
ワークシート	○	○	
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

※ギター、トーンチャイム、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、和楽器など幅広く取り組みます。
 ※タブレット、紙ファイルA4版、五線ノート8段～12段を用意してください。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	ガイダンス、校歌、カーロミオベン、 楽典（楽譜の基本的な知識学習）	6	【知】様々な表現形態による歌唱表現の特徴について理解している。 【技】姿勢や呼吸などの身体の使い方の技能、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。
5	二重唱「涙そうそう」 楽典基本問題集、確認テスト	8	【知】「涙そうそう」の曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 【技】曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。音色、リズム、速度、旋律、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。
6	楽典基本問題集 ギター基礎知識 確認発表	8	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。 【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。
7	ギター音の出し方 確認発表	6	【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。
8	ギターメロディーを弾くための テクニック・アルペジオ 確認発表	4	ギター奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をすることに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
9	変奏曲の魅力を探ろう —バカニーニが残した名変奏曲—古の音楽に 思いをはせよう —雅楽、悠久の響き—	4	【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。主題の変化や作品の特徴が音楽の構造とどのように関わっているかに関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
10	リコーダーアンサンブルを楽しもう	8	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。 【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 【思】音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【思】リコーダーの奏法を身に付けることや音楽表現を創意工夫しながらアンサンブル活動をすることに関心をもち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
11	トーンチャイムに親しもう	4	【知・技】・楽譜の読み方を理解して演奏したり、正しい姿勢や奏法で演奏したりすることができる。 【思・判・表】メロディーのまとまりを考えながら演奏できる。 【主】意欲的に学習に取り組み、課題曲を仕上げるすることができる。
		4	【知・技】楽譜に書かれている音符や記号の読みやはたらきについて理解できる。 【思・判・表】楽譜に書かれていることを、演奏表現に結び付けて考えることができる。 【主】演奏表現を生かすために意欲的に楽譜を理解しようとする取り組みができる。
12	紙芝居とトンチャイム	3	【知・技】楽譜の読み方を理解して演奏したり、正しい姿勢や奏法で演奏したりすることができる。【思・判・表】メロディーのまとまりを考えながら演奏できる。 【主】意欲的に学習に取り組み、課題曲を仕上げるすることができる。
		3	【知・技】楽譜に書かれている音符や記号の読みやはたらきについて理解できる。 【思・判・表】楽譜に書かれていることを、演奏表現に結び付けて考えることができる。 【主】演奏表現を生かすために意欲的に楽譜を理解しようとする取り組みができる。
1	音楽会を聴こう —音楽Ⅰのまとめとして	2	【知】曲想と楽器の音色や奏法との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。 【技】曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。音色、速度、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考えて聴き、どのように演奏するかについて表現意図をもっている。 【思】日本の楽器の奏法を学び、音色や奏法の特徴を感じ取ることで、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	英語	論理・表現Ⅱ	E	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、以下の3つの領域において言語活動及びこれらをつなぎ合わせた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。具体的な活動・領域は以下の通り。</p> <p>(1) 話すこと〔やり取り〕</p> <p>ア：日常的话题について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合ったり、立場や状況が異なる相手と交渉したりすることができるようにする。</p> <p>イ：日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張、課題の解決策などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝え合うことができるようにする。</p> <p>(2) 話すこと〔発表〕</p> <p>ア：日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>イ：日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、スピーチやプレゼンテーションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して詳しく話して伝えることができるようにする。</p> <p>(3) 書くこと</p> <p>ア：日常的话题について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p> <p>イ：日常的话题や社会的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、多様な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができるようにする。</p>				
教科書（出版社）	BIG DIPPER English Logic and Expression Ⅱ（数研出版）		副教材（出版社）		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどについて理解している。 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的话题や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して論理的に表現したり、伝え合ったりすることができる。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的かつ自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ることができる。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査、リスニングテスト、小テスト 等		◎	○	○
定期考査、ワークシート、パフォーマンステスト 等		○	◎	○
学習観察、授業や課題への取り組み 提出物		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

・身近な話題や社会的な話題について「話す（やり取りまたは発表）」、「書く」活動を頻繁に行います。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	オリエンテーション	1	
5	【Part 1】 Lesson 1 School Festival Lesson 2 A Trip to Sapporo	4	(知)「現在形」「過去形」「進行形」「未来形」を理解している。 (思)「現在形」「過去形」「進行形」「未来形」を用いて、適切な思考・判断をもってそれに 応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 3 My Dear Friend Lesson 4 A Dog in a Barbershop	3	(知)「助動詞」「完了形」を理解している。 (思)「助動詞」「完了形」を用いて、適切な思考・判断をもってそれに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 5 Japanese Food Lesson 6 Volunteer Activities Lesson 7 A Stage Actor	5	(知)「受動態」「不定詞」を理解している。 (思)「受動態」「不定詞」を用いて、適切な思考・判断をもってそれに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
6	前期中間考査	1	
7	Lesson 8 I Like Singing Lesson 9 Cycling	4	(知)「動名詞」「分詞」を理解している。 (思)「動名詞」「分詞」を用いて、適切な思考・判断をもってそれに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 10 My New Hiking Boots Lesson 11 The Yangtze River	4	(知)「比較級」「最上級」「原級」を理解している。 (思)「比較級」「最上級」「原級」を用いて、適切な思考・判断をもってそれに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 12 My Sister's Job Lesson 13 In Kansas City	4	(知)「関係詞」を理解している。 (思)「関係詞」を用いて、適切な思考・判断をもってそれに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
8	Lesson 14 Dreaming of Space Lesson 15 In An Android Like You	4	(知)「仮定法」を理解している。 (思)「仮定法」を用いて、適切な思考・判断をもってそれに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	前期期末考査	1	
9	【Part 2】 Lesson 1 What's Your Favorite Dish? Lesson 2 Uniforms or Casual Clothes? Lesson 3 Project Studies Program	6	(知)「好き嫌い」「希望・欲求」「賛成・反対」を述べる各表現を理解している。 (思)「好き嫌い」「希望・欲求」「賛成・反対」を述べる各表現を適切な思考・判断をもって それに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 4 A Guitar Concert Lesson 5 Studying Abroad Lesson 6 What Should I Do?	6	(知)「勧誘」「期待」「計画・意図」「提案・助言」を述べる各表現を理解している。 (思)「勧誘」「期待」「計画・意図」「提案・助言」を述べる各表現を適切な思考・判断を もってそれに応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	Lesson 7 A Korean Drama Lesson 8 Going Bird Watching Lesson 9 Meeting the Deadline	6	(知)「程度・譲歩」「依頼・申請」「許可」を述べる各表現を理解している。 (思)「程度・譲歩」「依頼・申請」「許可」を述べる各表現を適切な思考・判断をもってそれに 応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
10	Lesson 10 Friendship Festival Lesson 11 Returning a Magazine Lesson 12 What Is Your Opinion?	6	(知)「感謝・喜び」「謝罪」「個人的な意見」を述べる各表現を理解している。 (思)「感謝・喜び」「謝罪」「個人的な意見」を述べる各表現を適切な思考・判断をもってそれ に 応答している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
	後期中間考査	1	
12	【PART 3】 Advanced Communicative Activities（発展的言語活動）	8	(知)効果的なプレゼンテーションをする上でのポイント（文法・語法・パラグラフ展開など） を理解している。 (思)プレゼンテーションのトピックに関する有効な支持文を用いて、聞き手がより関心を もつような presentation の原稿を作成し、加筆訂正を行い、よりよい内容にして表現 している。 (態)自分の考えを相手が理解しやすく伝えようとしている。
1	プレゼンテーション ・Making a Manuscript ・Making Your Presentation More Effective ・Being an Active Listener		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	芸術	総合美術	E	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	<p>美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	なし		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材費として5,000円程度を徴収する予定である。 ・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。 			開講 予定人数	21人

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表わしている。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の幅広い創造活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
制作物、小テスト	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション （1年の流れ、成績について教室の使用ルール） 	1	
	<ul style="list-style-type: none"> ・レタリング 	20	<p>【知】形や色，などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，デザインを全体のイメージや作風，様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに，表現を工夫し，目的や計画をもとに創造的にあらわしている。</p> <p>【発】ものの形や色の特徴などから主題を生成し，形と色の組み合わせや構成などの効果について考え，創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】デザインの目的や機能との調和の取れた洗練された美しさなどを感じ取り，形や色，構成の工夫などについて考え，見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的にデザインの目的や機能との調和の取れた美しさなどを感じ取り，形や色，構成の工夫などについて考える鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・かみしばい 	20	<p>【知】形や色，光などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，かみしばいを，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】意図に応じて用具の特性を生かして，ストーリーを効果的にあらわしている。</p> <p>【発】かみしばいを効果的にかつ，わかりやすく伝えるために形や色，構図などについて考え，個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【主】主体的にかみしばいの表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・版画表現 	20	<p>【知】形や色，材料などが感情にもたらす効果や，造形的な特徴などをもとに，版であらわした作品を，全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>【技】主題に合った表現の形式や方法を創意工夫し，版表現の特性を生かして個性豊かで創造的にあらわしている。</p> <p>【発】自然や自己，生活などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどから主題を生成し，版画ならではの表現を生かして，形や色，構図などについて考え，個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>【鑑】版であらわした作品の造形的なよさや美しさを感じ取り，発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え，見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的に自然や自己，生活などを深く見つめ感じ取ったことや考えたことなどをもとに，版画ならではの表現の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間まとめ、掃除 	3	

※単元の進捗状況により、単元の順序や内容変更の可能性があります。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	理科	化学	F	必履修・必修・ 選択	4
科目の目標	化学基礎で学んだ内容を基本として、化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
教科書 (出版社)	化学(数研出版)	副教材 (出版社)	新課程 リードLightノート化学 (数研出版)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けた
思考・判断・表現	・化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けた
主体的に学習に取り組む態度	・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けた

(2) 評価方法

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・「化学」の大学入学共通テストや理系大学の「化学」の二次試験などに対応できる学力を身につけます。
- ※2年次の選択B「化学概論」を履修していなくても選択可能ですが「化学概論」での内容は扱いません。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶	5	【知】結晶格子についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、結晶格子に関する技能を身に付けている。 【思】結晶格子について、観察、実験などを通して探究し、結晶格子における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】結晶格子に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
5	5 共有結合の結晶 第2章 物質の状態変化 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	10	【知】物質の状態変化についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、状態変化のエネルギーに関する技能を身に付けている。 【主】物質の状態変化に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
7	第3章 気体 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力	15	【知】気体についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、気体に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】気体について、観察、実験などを通して探究し、気体における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】気体に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
8	4 実在気体		
9	【前期期末考査】	1	
10	第4章 溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液	10	【知】液体についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、液体に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】液体について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】液体に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
11	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 ヘスの法則 3 化学反応と光	10	【知】エンタルピー変化やヘスの法則についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】エンタルピー変化やヘスの法則について、観察、実験などを通して探究し、反応式を書いたり、エンタルピー変化を求めたりできる。 【主】エンタルピー変化やヘスの法則に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
12	第3章 化学反応の速さとしくみ 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	10	【知】反応速度についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、反応速度に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】反応速度について、観察、実験などを通して探究し、気体における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】反応速度に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	第4章 化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	10	【知】化学平衡、ルシャトリエの原理、電離平衡についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、気体に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】観察、実験などを通して探究し、化学平衡、ルシャトリエの原理、電離平衡における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】化学平衡、ルシャトリエの原理、電離平衡に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

月	学習内容(単元名)	時数	評価の観点
	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 1 有機化合物の特徴と分類 2 有機化合物の分析 第2章 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸 4 エステルと油脂 第4章 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 フェノール類と芳香族カルボン酸 3 芳香族アミンとアゾ化合物 4 有機化合物の分離 【後期中間考査】	20	【知】有機化合物、アルコール及び関連化合物についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】有機化合物、アルコール及び関連化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物、アルコール及び関連化合物における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】有機化合物、アルコール及び関連化合物に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		1	
	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 1 高分子化合物の構造と性質 第2章 天然高分子化合物 1 糖類 2 アミノ酸とタンパク質 3 核酸 第3章 合成高分子化合物 1 合成繊維 2 合成樹脂 3 ゴム	20	【知】高分子化合物についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物における規則性や関係性を見いだして表現している。
	問題演習	15	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	理科	化学	F	必履修・必修・ 選択	4
科目の目標	化学基礎で学んだ内容を基本として、化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
教科書 (出版社)	化学(数研出版)	副教材 (出版社)	新課程 リードLightノート化学 (数研出版)		
留意点				開講 予定人数	17

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	・化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けた
思考・判断・表現	・化学的な事物・現象を観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けた
主体的に学習に取り組む態度	・日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けた

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート	○	◎	○
学習観察		○	◎

3 履修上および学習上の注意

- ・「化学」の大学入学共通テストや理系大学の「化学」の二次試験などに対応できる学力を身につけます。
- ※2年次の選択B「化学概論」を履修していなくても選択可能ですが「化学概論」での内容は扱いません。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1編 物質の状態 第1章 固体の構造 1 結晶とアモルファス 2 金属結晶 3 イオン結晶 4 分子間力と分子結晶	5	【知】結晶格子についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、結晶格子に関する技能を身に付けている。 【思】結晶格子について、観察、実験などを通して探究し、結晶格子における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】結晶格子に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
5	5 共有結合の結晶 第2章 物質の状態変化 1 粒子の熱運動 2 三態の変化とエネルギー 3 気液平衡と蒸気圧	10	【知】物質の状態変化についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、状態変化のエネルギーに関する技能を身に付けている。 【主】物質の状態変化に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
6	【前期中間考査】	1	
7	第3章 気体 1 気体の体積 2 気体の状態方程式 3 混合気体の圧力	15	【知】気体についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、気体に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】気体について、観察、実験などを通して探究し、気体における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】気体に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
8	4 実在気体		
9	【前期期末考査】	1	
10	第4章 溶液 1 溶解とそのしくみ 2 溶解度 3 希薄溶液の性質 4 コロイド溶液	10	【知】液体についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、液体に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】液体について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】液体に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
11	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー 1 化学反応と熱 2 ヘスの法則 3 化学反応と光	10	【知】エンタルピー変化やヘスの法則についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】エンタルピー変化やヘスの法則について、観察、実験などを通して探究し、反応式を書いたり、エンタルピー変化を求めたりできる。 【主】エンタルピー変化やヘスの法則に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
12	第3章 化学反応の速さとしくみ 1 化学反応の速さ 2 反応条件と反応速度 3 化学反応のしくみ	10	【知】反応速度についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、反応速度に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】反応速度について、観察、実験などを通して探究し、気体における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】反応速度に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
	第4章 化学平衡 1 可逆反応と化学平衡 2 平衡状態の変化 3 電解質水溶液の化学平衡	10	【知】化学平衡、ルシャトリエの原理、電離平衡についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、気体に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】観察、実験などを通して探究し、化学平衡、ルシャトリエの原理、電離平衡における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】化学平衡、ルシャトリエの原理、電離平衡に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

月	学習内容(単元名)	時数	評価の観点
	第4編 有機化合物 第1章 有機化合物の分類と分析 1 有機化合物の特徴と分類 2 有機化合物の分析 第2章 脂肪族炭化水素 1 飽和炭化水素 2 不飽和炭化水素 第3章 アルコールと関連化合物 1 アルコールとエーテル 2 アルデヒドとケトン 3 カルボン酸 4 エステルと油脂 第4章 芳香族化合物 1 芳香族炭化水素 2 フェノール類と芳香族カルボン酸 3 芳香族アミンとアゾ化合物 4 有機化合物の分離 【後期中間考査】	20	【知】有機化合物、アルコール及び関連化合物についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】有機化合物、アルコール及び関連化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物、アルコール及び関連化合物における規則性や関係性を見いだして表現している。 【主】有機化合物、アルコール及び関連化合物に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。
		1	
	第5編 高分子化合物 第1章 高分子化合物の性質 1 高分子化合物の構造と性質 第2章 天然高分子化合物 1 糖類 2 アミノ酸とタンパク質 3 核酸 第3章 合成高分子化合物 1 合成繊維 2 合成樹脂 3 ゴム	20	【知】高分子化合物についての基本的概念や原理・法則を理解しているとともに、に関する基本操作やデータ処理などの技能を身に付けている。 【思】高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物における規則性や関係性を見いだして表現している。
	問題演習	15	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	地理・歴史	地理探究	F	必修・必修・ 選択	4
科目の 目 標	<p>社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。「知識及び技能」</p> <p>(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。「思考力、判断力、表現力等」</p> <p>(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。「学びに向かう力、人間性等」</p>				
教科書 (出版社)	新詳地理探究 (帝国書院)	副教材 (出版社)	新詳地理探究演習ノート (帝国書院) 最新地理図表GEO (ジオ) (第一学習社)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解し、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。
思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義を、特色や相互の関連を系統地理的、地誌的に考察する、地理的な課題の解決に向けて構想する、考察、構想したことを効果的に説明する。
主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決する。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	◎	○	◎
学習観察	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

選択D地理探究(3単位)と合わせて履修することはできません
大学入学共通テストを中心とした大学入試に対応できる力を付けます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	<p>第1部 現代世界の系統地理的考察</p> <p>第1章 自然環境 24</p> <p>第2章 資源と産業 22</p> <p>第3章 交通・通信と観光、貿易 10</p> <p>第4章 人口、村落・都市 14</p> <p>第5章 生活文化、民族・宗教 11</p>		<p>【知】自然環境、資源・産業、交通・通信・観光・貿易、人口・村落・都市、生活文化・民族、宗教に関わる諸事象をもとに、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、地球環境問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している。</p> <p>【思】自然環境、資源・産業、交通・通信・観光・貿易、人口・村落・都市、生活文化・民族、宗教に関わる諸事象について、場所の特徴や自然および社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
	<p>第2部 現代世界の地誌的考察</p> <p>第1章 現代世界の地域区分 2</p> <p>第2章 現代世界の諸地域 38</p> <p>東アジア、東南アジア、南アジア、西アジア、アフリカ、EU諸国、ロシア、アメリカ合衆国、ラテンアメリカ、オセアニア</p>		<p>【知】自然環境、資源・産業、交通・通信・観光・貿易、人口・村落・都市、生活文化・民族、宗教について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
	<p>第3部 現代世界におけるこれからの日本の国土像</p> <p>第1章 持続可能な国土像の探究 7</p>		<p>【知】いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、諸地域にみられる地域的特色や地球的課題などについて理解している。いくつかの地域に区分した現代世界の諸地域をもとに、地域の結びつき、構造や変容などを地誌的に考察する方法などについて理解している。</p> <p>【思】現代世界の諸地域について、地域の結びつき、構造や変容などに着目して、主題を設定し、地域的特色や地球的課題などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>【主】現代世界の諸地域について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。</p>
			<p>【知】現代世界におけるこれからの日本の国土像の探究をもとに、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを構想することの重要性や、探究する手法などについて理解している。</p> <p>【思】現代世界におけるこれからの日本の国土像について、地域の結びつき、構造や変容、持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、我が国が抱える地理的な諸課題の解決の方向性や将来の国土の在り方などを多面的・多角的に探究し、表現している。</p> <p>【主】持続可能な国土像の探究について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に探究しようとしている。</p>

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	公民科	倫理	F・I	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	<p>人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化などに関わる諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を養う。</p> <p>自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</p>				
教科書 (出版社)	高等学校新倫理新訂版 (清水書院)	副教材 (出版社)	テオリア最新倫理資料集 (第一学習社)		
留意点	選択Fと選択Iにある倫理を同時履修することはできません。		開 講 予定人数	特になし	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解しているか。また、諸資料から人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取っているか。
思考・判断・表現	自己の生き方を見つめ直し、自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現しているか。
主体的に学習に取り組む態度	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしているか。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	◎	○	◎
学習観察	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストを中心とした大学入試に対応できる力をつける。 ・自らの課題として取り組む主体性が必要な科目である。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	第1編 現代を生きる自己の課題 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	6	【知】 パーソナリティに関するさまざまな理論や欲求、感情、認知、発達に関するさまざまな心理学的な知見を理解し、個性や人間の行動を多面的・多角的に説明することができる。 【思】 個性や行動の原因、意欲、動機づけ、知覚、学習、記憶、問題解決、推論、道徳的判断、発達などに関する心理学的な知見から、人間存在及び他者と共によりよく生きる自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。
	第2編 人間としての自覚 第1章 哲学の始源：ギリシア思想 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第4章 芸術と倫理	14	【主】 パーソナリティやさまざまな心の在り方に関する理論を手がかりにして、自己の課題や人間としての在り方生き方について主体的に追究しようとしている。 【知】 古代ギリシア、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教、仏教、儒教、道家に関する諸概念を、原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。 【思】 人間存在及び他者と共によりよく生きる自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 【主】 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究しようとしている。
	第3編 現代をかたちづくる倫理 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究	20	【知】 西洋思想家の基本的な知識を身に付けている。それらの思想家の原典資料を適切に読み取ることができる。 【思】 西洋思想の具体的な事例を通して、社会と人間の在り方や世界と人間の在り方を考察し、よりよく生きていくために何が重要かについて思索を深め、適切に表現できる。 【主】 西洋思想に関わる事象や課題について、自己の人生観や人間観と結び付けて主体的に追究しようとしている。
	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と精神文化 第2章 日本の近代化と人々の生き方	20	【知】 日本の伝統思想や思想家の基本的な知識を、原典資料を適切に読み取り、説明することができる。 【思】 日本の伝統思想、近世の思想を通して、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 【主】 国際社会における日本人としての在り方生き方の自覚を深めることで、日本人として主体的に生きていくために必要な能力を身に付けようとしている。
	第5編 現代における諸課題の探究 第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 第2章 社会や文化にかかわる諸課題	4	【知】 自然や科学技術との関わり、他者との協働、共生に向けた倫理的課題に対して、その解決に向けて、これまでの学習を通して身に付けた倫理に関する概念や理論を適切に活用できる。 【思】 人間との関わり、福祉、文化と宗教、平和などについての倫理的課題を見だし、協働、ケア、共生、異文化理解、人類全体の福祉などに着目して、多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述できる。 【主】 人間との関わり、倫理的課題の倫理的課題の探究を通して、多様な他者との対話を通して、人格の完成に向けて自己の生き方を確立しようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	理科	生物研究	F1	選択	2
科目の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、人体の健康を維持する意識を高める。 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。 				
教科書 (出版社)	1年次に使用した教科書	副教材 (出版社)	看護系受験問題集 生物基礎＋生物（数研出版）		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	人体の現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
思考・判断・表現	人体の現象の中に課題を見だし、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り 組む態度	人体の現象に関心をもち、意欲的にそれらを探究しようとする。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
ワークシート・レポート	○	○	○
学習観察(提出物等)			◎

3 履修上および学習上の注意

看護系大学や看護学校への入試対策レベルを到達目標として、演習等を中心に進めます。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 生物の特徴	6	<ul style="list-style-type: none"> 生物の構造物や性質の共通性、生理・生態に適応した多様性を理解し、整理して説明できる。 ヒトのエネルギーを生産・移動する細胞小器官を理解する。 DNA がヒトの遺伝子としてはたらくしくみや機能を理解し、説明できる。 ヒトの体内環境を維持するしくみについて、血液やホルモン、酵素、自律神経や免疫機能に至るまで、多様な物質や組織・器官の関わり合いを理解する。 ヒトの体内環境の維持や細胞レベルでの疾患の原理を理解し、説明できる。 気候条件によってもたらされる、植生の多様性が生物種全体の多様性に結びつくことを理解する。 生物多様性を保全する必要性と具体的な取組を説明できる。
	1 生物の多様性と共通性	5	
5	2 エネルギーと代謝		
	第2章 遺伝子とそのはたらき		
6	3 遺伝情報とDNA	4	
	4 遺伝情報の発現	6	
7	5 遺伝情報の分配	4	
	6 細胞から個体へ	4	
8	第3章 生物の体内環境		
9	7 体内環境としての体液	6	
	8 腎臓と肝臓による調節	5	
	9 神経とホルモンによる調節	5	
	10 免疫	4	
10	第4章 生物の多様性と生態系		
	11 植生の多様性と分布	4	
11	12 生態系とその保全	4	
	総復習	7	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数 学	生活の数学	F 1	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	身の回りの数学について、基礎的な計算力の定着を図る。また、数学的な表現の工夫について、活用する態度を身につけることができる。 経済にまつわる数学やコンピュータの原理について理解することができる。 歴史の中での数の表現を学び、いろいろな計算ができる。				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	なし		
留意点	特になし			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	事象を数学的に表現・処理する方法や推論の方法などの技能を身につけている。また、数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	数学の論理や体系に関心を持つとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

就職希望者、公務員希望者、専門学校進学希望者向けとしますが、基礎的な数学の知識や技能を幅広く身につけることを目的としています。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 身の回りの数学 第1節 いろいろな場合の数 試合数は全部でいくつか、 樹形図で考えよう、点字のしくみ、最短距離の道順	7	【知】 実生活における数学について、具体例を通して数学の有用性を理解し、計算することができる。 作図や工作を通し、図形の性質についての理解を深め、デザインの美しさや素晴らしさを感じ取ることができる。 【思】 数学的な表現の工夫について、具体例を通し事象を数学的に表現し、それらを活用する態度を身につけることができる。
5	第2節 身の回りの図形 紋章の美しさ、平面を敷き詰める、多面体の性質、正多面体の展開図	7	
	【前期中間考査】	1	【主】 積極的に課題や作業に取り組んだり、それらを理解したりしようとしている。
6	第3節 数学的な表現のくふう 道順とあみだくじ、7つの橋は渡れるか、行列と経路、行列の積、航路と行列の積	10	
7	第2章 社会生活と数学 第1節 経済と数学 福引きの賞金と期待値、単利法のしくみ、複利法のしくみ、ローンの返済	7	【知】 社会生活で実際に活用されている経済にまつわる数学を取り上げ、計算の違いから数学的な変化の違いを理解することができる。コンピュータの簡単な原理について理解し、数学がコンピュータの活用にとって大きな役割を果たしていることを認識している。 【思】 社会生活を営む上で人間がつくった数理的な仕組みについて、具体例を通し理解することができる。
8	【前期期末考査】	1	
9	第2節 測定と数学 本の大きさいろいろ、地図を読もう、坂道の角度を求めよう、建物の高さを求めよう	7	【主】 積極的に課題や作業に取り組んだり、それらを理解したりしようとしている。
10	第3節 コンピュータと人間の活動 コンピュータと2進法、GPS衛星、近似直線、標本調査	5	
11	第3章 数学の発展と人間の活動 第1節 数と人間 エジプトとバビロニアの数学、ローマの数字と5進法、	4	【知】 数学の歴史の中での数の表現を通し、数学の諸概念と人間の活動との関わりについて理解し、いろいろな計算ができる。 図形に関する諸概念が数学の歴史の流れの中でどのように形成されたかを理解し、数学の歴史をより一層身近なものとして感じ取ることができる。
	【後期中間考査】	1	
12	0の発見と位取り、四角数と三角数、フィボナッチ数列	5	【思】 数学と文化が深く関わっていることを認識し、日常生活の中にある事象を通し、数学と人間の活動との関わりを理解することができる。 【主】 積極的に課題や作業に取り組んだり、それらを理解したりしようとしている。
1	第2節 図形と人間 古代の測量と図形の面積、ピラミッドの高さ、三平方の定理の誕生、ピタゴラスと三平方の定理、円周率と円の面積、黄金比と2次方程式	9	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	家庭	保育基礎	I	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を養う。 【知識・技能】 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとする。 【思考・判断・表現】 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 【主体的に取り組む態度】 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
教科書 (出版社)	保育基礎 (実教出版 家庭 707)	副教材 (出版社)			
留意点	実習費 2,500 円徴収予定。			開講 予定人数	15 人以下

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	保育に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。 子どもの発達の特徴、生活と保育に関する知識を総合的に身につけている。
思考・判断・表現	子どもの発達や保育にかかわる現状について理解を深めたくうえで課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どものすこやかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
実技・単元テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

- ・ 保育園実習を行う予定です。子どもと積極的に関わる姿勢を持って授業に挑んで下さい。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	オリエンテーション	1	
	1章 子どもの保育 1 保育の意義 2 保育の方法 3 保育の環境	6	【知識・理解】生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特性と心身の様々な機能の発達について理解している。 【思考・判断・表現】保育者の役割を理解し、その資質や能力を身につけるにはどのような手に気をつけていけばよいかなど、考察ができる。 【主体的に学習に取り組む態度】発達課題に応じて、接し方・援助の仕方・適切な保育環境整備について述べている。
5	2章 子どもの発達 1 子どもの発達の特性 2 子どものからだの発達	16	【知識・理解】乳幼児の身体的特長と生理的特長およびその変化に関する知識を身につけている。 【思考・判断・表現】発達に合わせた大人の適切な関わり形について考察ができる。
6	3 子どもの心の発達		【主体的に学習に取り組む態度】胎児の生育環境である母体に対する課題意識と関心を高めている。
7	4章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義と支える場	12	【知識・理解】遊びを通じて子どもが豊かに発達することについて理解している。
8	2 子どもの遊びと表現活動		【思考・判断・表現】子どもの遊具等の作成に取り組み、遊びや表現活動を実践することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】子どもの文化の意義を理解し、それらの役割について関心を高めている。
9	3章 子どもの生活と養護 1 生活と養護 2 生活習慣の形成	23	【知識・理解】子どもの安全で健康的な生活に関する知識や技術を身につけている。
10			【思考・判断・表現】子どもが生活習慣を身につけるための援助の方法を考察することができる。
11	3 健康管理と事故防止		【主体的に学習に取り組む態度】子どもの発達に即した適切な習慣形成の働きかけを実習などの場面で実践しようとしている。
12			
	5章 子どもの福祉 1 子ども観の遍歴 2 子どもの福祉 3 子育て支援	6	【知識・理解】子ども観の遍歴や、子どもが権利の主体として尊重されつつある状況を理解している。 【思考・判断・表現】児童福祉の基本的な考えから、子どもの幸福について自分の意見や考えをまとめることができる。 【主体的に取り組む態度】子育ての現状を踏まえて、これからの子育て支援について関心を高めている。
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	文章表現	F2	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目標	<p>自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や相手に応じ、筋道を立てて適切に文章に書き、効果的に話したり的確に聞き取ったりする力を身につける。</p> <p>①知識・及び技能 論述、表現に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に文章を構成し、わかりやすく記述したり、話したりする力を身につけるようにする。 聞き手として、相手の論理を把握しながら聞く力を身につけるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 自身の知識・技能、思考、判断、表現の各領域の達成度について粘り強く向上させようと努め、自らの資質向上につなげる態度を身につけるようにする。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	・文章トレーニングノート (第一学習社)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	小テストや提出課題等で評価します。
思考・判断・表現	提出課題等で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	提出課題等で評価します。

(2) 評価方法

評価方法 \ 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
小テスト	◎		
提出課題	○	◎	◎
スピーチ	○	◎	○

3 履修上および学習上の注意

- ・タブレットを使用することがあるので、毎時間用意しておくようにしてください。
- ・人前で発表したり、グループで話し合うことの多い科目です。そのことを事前に了承ください。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4 5	○オリエンテーション① （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方）	1	
	○文章の基本的な書き方、原稿用紙の使い方について	知10 書4	【知】文章の書き方、原稿用紙の使い方を理解することができる。 【思】段落構成や文と文のつながりを意識して書くことができる。 【主】自身の得意不得意を分析し以降の授業に反映しようとしている。
6	○自己アピールの方法について	書4 話2	【知】自己を適切に分析し表現する方法を理解することができる。 【思】話す順番や強調表現を工夫し、自己を適切に表現できる。 【主】自身の得意不得意を分析し以降の授業に反映しようとしている。
7 8	○意見と根拠について	書6	【知】意見と根拠を結び付けて論述する方法を理解することができる。 【思】志望理由書などを例として、求められた条件通りに意見と根拠を効果的に論述することができる。 【主】自身の得意不得意を分析し次回の論述に反映しようとしている。
9	○小論文の書き方について	書10	【知】論文の構成法や段落同士の接続等を理解することができる。 【思】自身の意見について根拠を持って相手に適切に伝わるよう工夫することができる。 【主】自身の得意不得意を分析し次回の論述に反映しようとしている。
10	○要約などを伴う小論文の書き方について	書8	【知】評論の読解法を生かして本文の要旨を理解することができる。 【思】本文から必要な要素を見つけ、求められた条件通りにまとめ、論述することができる。 【主】自身の得意不得意を分析し次回に反映しようとしている。
11 12 1	○スピーチ等での話し方について	話16	【知】自己に関する事柄を他者にも伝わりやすく紹介するための表現方法を理解することができる。 【思】これまでに学習した知識・技能を駆使したうえで、話す順番や強調表現、間や緩急等を工夫し、自己を適切に表現できる。 【主】自身の得意不得意を分析し以降の授業に反映しようとしている。
2 3	○自己を表現することとその効果、必要性について	書4	【知】これまでの学習内容から、自らが得た知識・技能を分析することができる。 【思】これまでの学習内容から、自己表現について他者も理解できるよう根拠を含めて論述することができる。 【主】自身の得意不得意を分析し今後の人生に反映しようとしている。
		64	

※文章表現は「思考、判断、表現」の3領域のうち、「話すこと」、「書くこと」を評価します。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	実用国語	F2・H	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>日常的な国語について学び、読む、書く、話す、聴く力を総合的に身につけ、基礎的な国語力の充実と自己表現力の育成を目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	パスポート国語必携 国語常識の演習と確認 五訂版 (桐原書店)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト・課題		◎	◎	
作文・発表・グループ活動			◎	◎
学習観察				◎

3 履修上および学習上の注意

漢字検定準2級以上を受験することが望ましい。

4 年間指導計画 (単元の目標と評価の観点)

月	学習内容 (単元名)	時数	評価の観点
---	------------	----	-------

4	オリエンテーション (使用教材、成績の付き方)	1	
	○正しく情報を伝えよう ・他己紹介	4	【知】伝え方の方法や工夫を理解することができる。 【思】相手の情報が他者に正しく伝わるようにインタビューの仕方や紹介を工夫することができる。 【主】積極的にコミュニケーションをとり、相手をより理解しようとしている。
5	○敬語について学ぶ	5	【知】「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を理解している。 【思】それぞれの敬語を文章に合わせて判断することができる。 【主】敬語への理解を深め、日常でも使いこなそうとしている。
6	○自己理解を深めよう ・スピーチ発表 「自分の長所と短所」	7	【知】具体的でわかりやすいスピーチ内容はどんなものか理解している。 【思】目線、声量、話すスピードなど「話す」ときに気をつけなければいけないことを意識して話している。 【主】自身を振り返り、自己理解を深めようとしている。
7	○わかりやすい文章の作り方 ・文章の整え方① ・原稿用紙の使い方 ・作文作成① 「学校生活で学んだこと」	10	【知】「話し言葉」と「書き言葉」の違いなど、わかりやすい文章の書き方を理解している。 【思】自分の考えをまとめ、相手にわかりやすい文章を考えることができる。 【主】伝えたい内容に合わせた表現を工夫しようとしている。
	○SPI対策	4	【知】「二語の関係」や「同意語・反意語、語句の意味」等を理解している。 【思】SPIの特徴を理解し、問題を早く、正確に解こうとしている。 【主】より多くの問題に触れ、問題に慣れようとしている。
8	○読みやすい文章の作り方 ・文章の整え方②	4	【知】「主述の対応」や「接続詞」等を理解している。 【思】決められたルールを使い、自分の文章に反映させようとしている。 【主】積極的に文章の表現技法を使おうとしている。
9	○インタビューをしてみよう	4	【知】インタビューをするときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】相手がより話したくなるような質問をしようとしている。 【主】相手の話に興味を持ち、積極的にインタビューしようとしている。
10	○将来について考えよう ・作文② 「十年後の自分」	5	【知】原稿用紙の使い方を理解している。 【思】比喩表現など、文章表現を豊かにする工夫をしている。 【主】将来の自分を想像し、根拠をもとにして考えようとしている。
	○模擬討論をしてみよう 「留萌地域移住プロジェクト」	5	【知】自分の考えを、根拠をもとに話そうとしている。 【思】自分なりのアイデアを持ち、他の人の意見を聞いて考えを膨らませようとしている。 【主】積極的に討論し、アイデアを深めようとしている。
11	○「聞くこと」の力をつけよう ・落語、新聞、エッセイ等	5	【知】「聞く」ときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】情報を正確に聞き取り、内容を理解しようとしている。 【主】リスニング教材に興味関心を持とうとしている。
12	○「書くこと」の力をつけよう ・子供の権利条約	5	【知】文章の種類によって、文章表現が変わることを理解している。 【思】「読み手」によって文章表現を変え、適した文章を書こうとしている。 【主】場面ごとの文章の書き方の違いに興味を持とうとしている。
1	○学校生活を振り返ろう ・作文作成③ 「留萌高校をもっとよい学校にするには」	5	【知】説得力のある文章の書き方を理解している。 【思】自分の考えを具体的に書き、わかりやすく説得力のある文章になるよう工夫している。 【主】自分の周りの環境の「改善点」に気づき、想像を膨らませ、「改善方法」を考えようとしている。
2			
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数 学	基礎数学β	F 2	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	数量についての標準～発展的な知識及び技能・数学的な思考力を身につけさせるとともに、身の回りで活用されている数学的事例への応用について学ぶことを通して、数学的論拠に基づいて判断する態度を養う。				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	なし		
留意点	公務員志望者向けの講座です。			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能や推論の方法を身につけている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

特にありません。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	<ul style="list-style-type: none"> ・数的推理 方程式・割合・速さ・確率 図形の計量・整数・規則性 	17	【知】 数的推理に関する基本的な計算ができる。 【思】 数的推理に関する数学的な推理を要する問題を考察し、解くことができる。 【主】 課題や授業に積極的に取り組み、理解しようとしている。
5			
6			
7			
8			
9	【前期中間考査】 <ul style="list-style-type: none"> ・判断推理 順序関係・対応関係・集合・論理 暗号・位置関係・証言・日暦 	1 17	【知】 判断推理に関する基本的な計算ができる。 【思】 判断推理に関する数学的な推理を要する問題を考察し、解くことができる。 【主】 課題や授業に積極的に取り組み、理解しようとしている。
10			
11			
12			
1			
	【後期中間考査】 <ul style="list-style-type: none"> ・資料解釈 数表で与えられた資料 グラフで与えられた資料 	1 10	【知】 資料解釈に関する基本的な計算ができる。 【思】 資料解釈に関する数学的な推理を要する問題を考察し、解くことができる。 【主】 課題や授業に積極的に取り組み、理解しようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	文章表現	F2	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	<p>自分の考えをまとめたり深めたりして、目的や相手に応じ、筋道を立てて適切に文章に書き、効果的に話したり的確に聞き取ったりする力を身につける。</p> <p>①知識・及び技能 論述、表現に必要な国語の知識・技能を身につけるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に文章を構成し、わかりやすく記述したり、話したりする力を身につけるようにする。 聞き手として、相手の論理を把握しながら聞く力を身につけるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 自身の知識・技能、思考、判断、表現の各領域の達成度について粘り強く向上させようと努め、自らの資質向上につなげる態度を身につけるようにする。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	・文章トレーニングノート (第一学習社)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	論述、表現に必要な国語の知識・技能を身につけようとしている。
思考・判断・表現	論理的に文章を構成し、わかりやすく記述したり、話したりする力を身につけようとしている。聞き手として、相手の論理を把握しながら聞く力を身につけようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	自身の知識・技能、思考、判断、表現の各領域の達成度について粘り強く向上させようと努め、自らの資質向上につなげる態度を身につけようとしている。

(2) 評価方法

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト	◎		
提出課題	○	◎	◎
スピーチ	○	◎	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを使用することがあるので、毎時間用意しておくようにしてください。 ・人前での発表、グループで話し合うことの多い科目です。そのことを事前に了承ください。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4 5	○オリエンテーション① （使用教材、成績の付き方） （Chromebook の使い方） ○文章の基本的な書き方、 原稿用紙の使い方について	1 知 10 書4	【知】 文章の書き方、原稿用紙の使い方を理解することができる。 【思】 段落構成や文と文のつながりを意識して書くことができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し以降の授業に反映しようとしている。
6	○自己アピールの方法について	書4 話2	【知】 自己を適切に分析し表現する方法を理解することができる。 【思】 話す順番や強調表現を工夫し、自己を適切に表現できる。 【主】 自身の得意不得意を分析し以降の授業に反映しようとしている。
7 8	○意見と根拠について	書6	【知】 意見と根拠を結び付けて論述する方法を理解することができる。 【思】 志望理由書などを例として、求められた条件通りに意見と根拠を効果的に論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回の論述に反映しようとしている。
9	○小論文の書き方について	書 10	【知】 論文の構成法や段落同士の接続等を理解することができる。 【思】 自身の意見について根拠を持って相手に適切に伝わるよう工夫することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回の論述に反映しようとしている。
10	○要約などを伴う小論文の書き方 について	書8	【知】 評論の読解法を生かして本文の要旨を理解することができる。 【思】 本文から必要な要素を見つけ、求められた条件通りにまとめ、論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し次回に反映しようとしている。
11	○スピーチ等での話し方について	話 15	【知】 自己に関する事柄を他者にも伝わりやすく紹介するための表現方法を理解することができる。 【思】 これまでに学習した知識・技能を駆使したうえで、話す順番や強調表現、間や緩急等を工夫し、自己を適切に表現できる。 【主】 自身の得意不得意を分析し以降の授業に反映しようとしている。
12 1	○自己を表現することとその 効果、必要性について	書4	【知】 これまでの学習内容から、自らが得た知識・技能を分析することができる。 【思】 これまでの学習内容から、自己表現について他者も理解できるよう根拠を含めて論述することができる。 【主】 自身の得意不得意を分析し今後の人生に反映しようとしている。
		64	

※文章表現は「思考、判断、表現」の3領域のうち、「話すこと」、「書くこと」を評価します。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数学	数学Ⅲ	G	必履修・必修・ 選択	4
科目の目標	極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書(出版社)	高等学校 数学Ⅲ (数研出版)	副教材 (出版社)	教科書傍用 4プロセス数学Ⅲ (数研出版)		
留意点	数学Ⅰ・A、数学Ⅱ・Bの習熟度別クラス編成において、 α クラスに在籍していた者が望ましい。		開講 予定人数		

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数式化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察する力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「教科書傍用 4プロセス 数学Ⅲ」を、家庭学習（予習・復習）で活用する。 ・国公立大学の2次試験（理系）を中心とした大学入試に対応できる学力を身につける。数学Ⅲを受験科目とする、四年制理系大学への進学を考えている人は必ず受講すること。 ・数学Ⅰ・A・Ⅱ・Bの既習事項を復習しておく必要がある。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 関数	13	<p>【知】 簡単な分数関数と無理関数の値の変化やグラフの特徴や、合成関数や逆関数の意味について理解することができる。</p> <p>【思】 既に学習した性質と関連付けて、簡単な分数関数と無理関数のグラフの特徴を多面的に考察することができる。</p> <p>【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
5	第2章 極限 数列の極限 関数の極限	25	<p>【知】 数列や関数の極限の値や、無限級数の収束、発散について理解し、数列の和や無限級数の和を求めることができる。</p> <p>【思】 式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりして、極限を求める方法を考察することができる。</p> <p>【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
6	【前期中間考査】	1	
7	第3章 微分法 導関数 いろいろな関数の導関数	22	<p>【知】 微分可能性、関数の積及び商の導関数やいろいろな関数の導関数について理解し、それらを求めることができる。</p> <p>【思】 いろいろな関数の導関数や、関数の連続性と微分可能性、関数と導関数や二次導関数の関係について考察することができる。</p> <p>【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
8	第4章 微分法の応用 導関数の応用	23	<p>【知】 導関数を用いて、いろいろな曲線の接線の方程式を求めたり、いろいろな関数の値の増減、極大・極小、グラフの凹凸などを調べグラフの概形をかいたりすることができる。</p> <p>【思】 関数の局所的な変化や大域的な変化に着目し、事象を数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察することができる。</p> <p>【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
9	【前期期末考査】 第4章 微分法の応用 いろいろな応用	1	
10	第5章 積分法とその応用 不定積分	37	<p>【知】 不定積分及び定積分の基本的な性質や、置換積分法及び部分積分法について理解し、それらを用いて不定積分や定積分を求めることができる。</p> <p>定積分を利用していろいろな曲線で囲まれた図形の面積や立体の体積及び曲線の長さを求めることができる。</p>
11	定積分 【後期中間考査】	1	<p>【思】 関数の式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりして、いろいろな関数の不定積分や定積分を求める方法について考察することができる。</p> <p>極限や定積分の考えを基に、立体の体積や曲線の長さなどを求める方法について考察することができる。</p> <p>【主】 粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
12	第5章 積分法とその応用 積分法の応用	5	
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数 学	数学探究β	G	必履修・必修・ 選択	4
科目の 目 標	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bにおいて既習事項の基本を確認した後、発展的な内容の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、それらを活用する態度を育成する。				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	・ジュニア演習 数学Ⅰ・A 受験編 ・チェックノート 数学Ⅱ+B+C 傍用型 (ともに数研出版)		
留意点	大学入学共通テストの数学に対応するため、数学Cについても履修すること。			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能や推論の方法を身につけている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストの数学ⅠAⅡBまでの範囲の受験を目標とした大学入試に対応できる学力を身につける。 数学ⅠAⅡBについては、2年生のうちに既習事項を復習しておくことが必要である。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	数学Ⅰ・A 演習 数学Ⅰ「数と式」	9	【知】数と式、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
5	数学Ⅰ「2次関数」	12	【思】関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察したりすることができる。
	数学Ⅰ「データの分析」	3	【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
6	数学A「図形の性質」	9	【知】図形と計量、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
	数学Ⅰ「図形と計量」	9	【思】図形の構成要素間に関係などに着目し、図形の性質や計量について論理的に考察することができる。
			【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
7	数学Ⅰ「集合と命題」	3	【知】場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
	数学A「場合の数と確率」	15	【思】不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。
			【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
	数学Ⅱ・B 演習		
8	数学Ⅱ「式と証明」	4	【知】いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
9	数学Ⅱ「複素数と方程式」	4	【思】数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察することができる。
	数学Ⅱ「図形と方程式」	7	【思】座標平面上の図形について構成要素間に関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりすることができる。
10	数学Ⅱ「三角関数」	4	【思】関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。
	数学Ⅱ「指数関数と対数関数」	4	【思】関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。
	数学Ⅱ「微分法と積分法」	7	【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
11	数学B「数列」	7	【知】数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
	数学B「統計的な推測」	3	【思】離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察することができる。
			【思】確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができる。
			【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
12	共通テスト演習 「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B・C」	28	【知】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
			【思】問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。
1			【主】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	現代文研究	G	必履修・必修・選択	4
科目の 目標	<p>文章を的確に理解し、適切に論述する能力を高める。</p> <p>①知識・及び技能 文章の読解、論述の表現に必要な国語の知識・技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 論理的に文章を読解し、求められた条件で適切に論述する力を身に付けるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 自身の知識・技能、思考、判断、表現の各領域の達成度について粘り強く向上させようと努め、自らの学力向上につなげる態度を身に付けるようにする。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	<p>・新訂版 正しく読み・解くための力をつける現代文 ステップ 1.5。2 (数研出版)</p>		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	単元テストや小テスト等で評価します。
思考・判断・表現	単元テストや授業内の課題、提出物等で評価します。
主体的に学習に取り組む態度	提出課題等で評価します。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
単元テスト・小テスト	◎	◎	○
提出課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<p>・タブレットを使用することがあるので、毎時間用意しておくようにしてください。</p>

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション 基礎編	1 14	(知) 語彙を身につけている。 (思) 文章を論理的に解釈し、筆者の主張や登場人物の心情を正確に読み取ることができる。
5	標準編 6～9 小テスト	12 2	(主) 文章を理解し、主体的に設問に取り組もうとしている。
6	標準編 10～13 小テスト	14 2	
7	標準編 14～16 小テスト	12 2	
8	標準編 17～18 小テスト	8 2	
9	標準編 19～22 小テスト 実力テスト	12 1 2	(知) 文章を読むのに適切な語彙を身につけている。 (思) 文章を論理的に解釈し、筆者の主張や登場人物の心情を正確に読み取ることができる。 (主) 文章を理解し、主体的に設問に取り組もうとしている。
10	標準編23～25	14	文章を読んで自分の考えを書いたり話したりできる。
11	実践編26～28 小テスト	12 2	
12	実践編29～30 小テスト 小論文	8 2 3	
1	スピーチ練習 ディベート	5	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	地理歴史	ふるさと創生学	G1	選択	2
科目の目標	<p>社会的な見方・考え方を働かせ、私たちが生活する地域社会の課題を追求したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び地域社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。</p> <p>(1) 現代世界の地域的特色と地域の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 地域の地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> <p>(3) 地域の地理多歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、涵養される地域住民としての自覚、地域社会に対する愛情を深める。</p>				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	なし		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	私たちが生活する地域的特色や課題などを理解し、調査や諸資料から地域に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。
思考・判断・表現	私たちが生活する地域に関わる事象の意味や意義、特色を多面的・多角的に考察、構想し、それらを効果的に説明、議論している。
主体的に学習に取り組む態度	私たちが生活する地域に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
グループワーク		○	◎	◎
ワークシート		◎	◎	◎
学習観察		○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

就職・公務員・専門学校希望生徒対象の科目である。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	オリエンテーション 北海道の特色理解1 調べ学習 北海道の特色理解2 調べ学習 北海道の特色理解3 調べ学習 北海道の特色理解4 調べ学習 振り返り（レポート）	7	すべての単元で3観点を評価する。年間を通じての評定の総括の際は3観点を同等にみる。 【知識・技能】私たちが生活する地域的特色や課題などを理解し、調査や諸資料から地域に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身についている。
	留萌管内の特色理解1 調べ学習 留萌管内の特色理解2 調べ学習 ※ 高体連 留萌管内の特色理解3 調べ学習 ※ 高体連 留萌管内の特色理解4 調べ学習 ※ 高体連 振り返り（レポート） 予備日	7	【思考・判断・表現】私たちが生活する地域に関わる事象の意味や意義、特色を多面的・多角的に考察、構想し、それらを効果的に説明、議論している。 【主体的に学習に取り組む態度】私たちが生活する地域に関わる諸事象について、より良い社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとしている。
	外部講師講演1 外部講師講演2 振り返り（レポート）	5	
	留萌管内の生物について（講師：理科教諭） 留萌管内の生物について 調べ学習1 留萌管内の生物について 調べ学習2 振り返り（レポート）	6	
	外部講師による質疑応答 振り返り（レポート） 振り返り（グループワーク） 振り返り（レポート）	7	
	予備日（3日）	5	
	食文化・地産地消1（講師：家庭科教諭） 食文化・地産地消2（II） 食文化・地産地消3（調理実習） 振り返り（レポート）	6	
	外部講師による授業・質疑応答1（観光） 外部講師による授業・質疑応答2（道の駅等） 振り返り（レポート）		
	グループ分け・テーマ設定 グループ別探究活動	9	
	発表資料作成（8回） 発表1 発表2 発表3 まとめ（レポート）	12	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数学	数学探究 α	E	必履修・必修・ 選択	4
科目の目標	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bにおいて既習事項の基本を確認した後、発展的な内容の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、それらを活用する態度を育成する。				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	・ジュニア演習 数学Ⅰ・A 受験編 ・チェックノート 数学Ⅱ+B+C 傍用型 (ともに数研出版)		
留意点	大学入学共通テストの数学に対応するため、数学Cについても履修すること。			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数学における基本的な概念や原理・法則に理解するとともに、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能や推論の方法を身につけている。
思考・判断・表現	事象を数学的に考察し表現したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度を身につけている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストの数学ⅠAⅡBまでの範囲の受験を目標とした大学入試に対応できる学力を身につける。 数学ⅠAⅡBについては、2年生のうちに既習事項を復習しておくことが必要である。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	数学Ⅰ・A 演習 数学Ⅰ「数と式」	9	【知】数と式、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
5	数学Ⅰ「2次関数」	12	【思】関数関係に着目し、事象を的確に表現したり、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。
	数学Ⅰ「データの分析」	3	【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
6	数学A「図形の性質」	9	【知】図形と計量、図形の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
	数学Ⅰ「図形と計量」	9	【思】図形の構成要素間に関係などに着目し、図形の性質や計量について論理的に考察することができる。
			【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
7	数学Ⅰ「集合と命題」	3	【知】場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
	数学A「場合の数と確率」	15	【思】不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。
			【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
	数学Ⅱ・B 演習		
8	数学Ⅱ「式と証明」	4	【知】いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
9	数学Ⅱ「複素数と方程式」	4	【思】数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察することができる。
	数学Ⅱ「図形と方程式」	7	【思】座標平面上の図形について構成要素間に関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりすることができる。
10	数学Ⅱ「三角関数」	4	【思】関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察することができる。
	数学Ⅱ「指数関数と対数関数」	4	【思】関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。
	数学Ⅱ「微分法と積分法」	7	【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
11	数学B「数列」	7	【知】数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
	数学B「統計的な推測」	3	【思】離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察することができる。
			【思】確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりすることができる。
			【主】粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしている。
12	共通テスト演習 「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ・B・C」	28	【知】数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。
			【思】問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりすることができる。
1			【主】問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	公民	政治課題研究	G2	選択	2
科目の目標	<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するために、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる諸課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成により積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>				
教科書(出版社)	なし	副教材(出版社)	なし		
留意点	なし			開講 予定人数	指定なし

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	現代の諸課題の解決に向けて探究する手掛かりとなる概念や理論などについて、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる諸課題を把握し説明しているとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想・議論を行って公正に判断し合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、現代の諸課題を主体的に解決しようとしているとともに、積極的な役割を果たそうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
単元テスト・小テスト	○		
課題・作品	○	○	○
発表・振り返り		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 政治と経済は密接に関わっているため、政治分野だけを取り扱うわけではない。 3観点のうち、「知識・技能」は“課題解決のために調査し資料をまとめる”技能を重視する。 適時アクティブラーニングを実施する。 学習内容は調べ学習、まとめ学習、発表学習が主である。 SDGs等、現代社会に関わる課題をいかに解決するかを考えることに加え、調べたり発表したりする活動も行う。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1. 情報収集の手法	8	<p>すべての単元で3観点を評価するが、単元ごとに重点を置き評価する。年間を通じての評定の総括の際は3観点を同等にみる。</p> <p>【知技】単元1・2で重点的に評価する。 現代の諸課題の解決に向けて探究する手掛かりとなる概念や理論などについて、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。</p> <p>【思判表】単元3～5で重点的に評価する。 政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる諸課題を把握し説明しているとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想・議論を行って公正に判断し合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。</p> <p>【主体的】単元6・7で重点的に評価する。 よりよい社会の実現のために、現代の諸課題を主体的に解決しようとしているとともに、積極的な役割を果たそうとしている。</p>
5	2. テーマ設定の手法	8	
6	3. 個人発表①	8	
7	4. 個人発表②	8	
8	5. グループ発表①	10	
9			
10	6. グループ発表②	10	
11			
12	7. 卒業発表	12	
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数 学	数学 C	H	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書 (出版社)	高等学校 数学 C (数研出版)	副教材 (出版社)	教科書傍用 4プロセス数学 C (数研出版)		
留意点	大学入学共通テスト受験予定者は、必ず受講すること。			開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫についても認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「教科書傍用 4プロセス 数学C」を、家庭学習（予習・復習）で活用する。 ・大学入学共通テストを中心とした大学入試に対応できる学力を身につける。四年制国立大学への進学を考えている人は必ず受講すること。 ・数学 I・A・II・B の既習事項を復習しておく必要がある。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 平面上のベクトル ベクトルとその演算	16	<p>【知】平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示、ベクトルの内積及びその基本的な性質について理解することができる。</p> <p>【思】実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則することができる。</p> <p>ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
5	ベクトルと平面図形		
6	【前期中間考査】	1	
7	第2章 空間のベクトル	15	<p>【知】座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解することができる。</p> <p>【思】ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりすることができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
8			
9	【前期期末考査】	1	
10	第3章 複素数平面	15	<p>【知】極座標の意味及び曲線が極方程式で表されることや、複素数平面と複素数の極形式、実数倍、和、差、積及び商の図形的な意味、ド・モアブルの定理について理解することができる。</p> <p>【思】複素数平面における図形の移動などに関連付けて、複素数の演算や累乗根などの意味を考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
11	第4章 式と曲線	15	
12	【後期中間考査】	1	
1			<p>【知】放物線、楕円、双曲線が2次式で表されること及びそれらの二次曲線の基本的な性質や曲線の媒介変数表示について理解することができる。</p> <p>【思】放物線、楕円、双曲線を相互に関連付けて捉え、考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	英語	実用英語	H	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、ニュース記事や時事問題について記された題材を用いて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	Watching World (浜島書店)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	世界の時事問題や文化に関するニュース記事を正しく読み、事実や自分の意見を論理的に相手に伝えるために必要な英単語や、英文法知識の定着度と運用能力を評価する。
思考・判断・表現	世界の時事問題や文化の違いを知り、その社会的背景を理解した上で、多様な語句を用いて論理の展開や表現の方法を工夫しながら分かりやすく相手に伝える能力を評価する。
主体的に学習に取り組む態度	世界各地の文化や宗教、経済を学び、自分と異なる人々の価値観を尊重するとともに、自国の文化や自身の意見も尊重しながら公平な立場で英語でのコミュニケーションを図ろうとする態度を評価する。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
単元テスト、 リスニングテスト	◎	○	
ワークシート、 パフォーマンステスト	○	◎	○
授業態度、提出物			◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 身近な話題について英語で話す活動、ペアやグループによるパフォーマンステスト（ロールプレイ、プレゼンテーションなど）を行います。 主に、単元テストとパフォーマンステストで評価をします。詳しくは授業内で説明します。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	○オリエンテーション	1	
	1 Food Culture in China	3	(知) 受動態を用いた文の用法を理解している。 (思) 好きな料理の特徴や食材について、英語で話することができる。 (主) 好きな料理の特徴や食材について、英語で話そうとしている。
	単元テスト①	1	
	2 Multiethnic Singapore	3	(知) 継続を表す過去完了を用いた文の用法を理解している。 (思) 習ってみたい外国語とその理由について英語で話することができる。 (主) 習ってみたい外国語とその理由について英語で話そうとしている。
5	単元テスト②	1	
	3 Unique Australian English	3	(知) to 不定詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 知っている方言の意味について英語で話することができる。 (主) 知っている方言の意味について英語で話そうとしている。
	単元テスト③	1	
	4 The Ganges	3	(知) 名詞を修飾する過去分詞を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本の観光地やイベントについて、英語で話することができる。 (主) 日本の観光地やイベントについて、英語で話そうとしている。
6	単元テスト④	1	
	● Travel English	1	
	5 Turkish Cuisine	3	(知) 接続詞 if を用いた文の用法を理解している。 (思) おすすめの日本食について英語で説明できる。 (主) おすすめの日本食について英語で説明しようとしている。
	単元テスト⑤	1	
	6 Ramadan	3	(知) 比較級を用いた文の用法を理解している。 (思) 節分、七夕、七五三について英語で説明できる。 (主) 節分、七夕、七五三について英語で説明しようとしている。
	7 単元テスト⑥	1	
	7 Kenya, Leading Mobile Money Country	3	(知) 道具を表す with を用いた文の用法を理解している。 (思) スマートフォンの便利な機能やアプリについて英語で説明できる。 (主) スマートフォンの便利な機能やアプリについて英語で説明しようとしている。
	単元テスト⑦	1	
	【パフォーマンステスト1】	4	
	8 Onion Domes of Russian Churches	3	(知) 名詞を修飾する～ing を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本の寺や神社での作法を英語で説明できる。 (主) 日本の寺や神社での作法を英語で説明しようとしている。
	単元テスト⑧	1	
	● Talking about Japan	1	
9	9 British Boarding Schools	3	(知) see+人+～ing を用いた文の用法を理解している。 (思) 学校生活の思い出を英語で話せる。 (主) 学校生活の思い出を英語で話そうとしている。
	単元テスト⑨	1	
	10 Land of Fire and Ice	3	(知) 関係代名詞 that を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本のエネルギー利用について、英語で話し合える。 (主) 日本のエネルギー利用について、英語で話し合おうとしている。
	単元テスト⑩	1	
	11 Japanese Immigrants to Brazil	3	(知) it is ～ (for 人) to …を用いた文の用法を理解している。 (思) 海外で活躍する日本人について英語で話せる。 (主) 海外で活躍する日本人について英語で話そうとしている。
	単元テスト⑪	1	
11	12 Day of the Dead	3	(知) that 節を用いた文の用法を理解している。 (思) 日本のお盆やお墓参りについて、英語で説明できる。 (主) 日本のお盆やお墓参りについて、英語で説明しようとしている。
	単元テスト⑫	1	
12	13 The U.S.A. and Its States	3	(知) 接続詞 when を用いた文の用法を理解している。 (思) 行きたい国とその理由を英語で話せる。 (主) 行きたい国とその理由を英語で話そうとしている。
	単元テスト⑬	1	
1	【パフォーマンステスト2】	5	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	芸術（音楽）	音楽Ⅱ	H	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	<p>(1) 音楽Ⅰの学習経験を基盤として、質的に高めた音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせながら、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化とより深く関わる資質・能力を育成する。</p> <p>(2) 音楽Ⅰの学習成果を踏まえ、文化的・歴史的背景や音楽の多様性について理解を深め、より広い視野で音楽を捉えることができるようにする。</p> <p>(3) 個性豊かな音楽表現を創意工夫できるようにするために、必要となる技能を身に付け高めることができるようにする。</p> <p>(4) 音や音楽を知覚・感受し、思考・判断する過程を充実させ、音楽を評価しながらそのよさや美しさを深く味わって聴く力を高める。</p> <p>(5) 主体的・協働的な音楽活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、音や音楽のよさや美しさなどを自ら進んで感じ取ろうとする態度を養う。</p> <p>(6) 音や音楽と生活や社会との関わりについて考え、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度や音楽の知的財産権を尊重する態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	教育出版 音楽Ⅱ Tutti+	副教材 (出版社)	自作のプリント・楽譜など		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<p>【知】曲想と音楽の構造との関わり、曲想と器楽の音色や奏法との関わり及びそれらの関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による器楽表現の固有性や多様性について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能、他者との調和を意識して演奏する技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして演奏する技能を身に付け、器楽で表している。【知】様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。</p> <p>【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p>
思考・判断・表現	<p>音色、リズム、旋律、テクスチャを知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。</p> <p>音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに器楽表現を創意工夫している。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>なじみのあるJ-POPの歌を、歌詞の内容や作詞者・作曲者のメッセージを考えながら二部合唱で歌うことに関心をもち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>器楽や和楽器の音色や奏法の特徴を感じ取ることや、諸民族の楽器と日本の楽器との比較を通して音楽表現や音楽主体的に学習に取り組む態度文化の固有性、共通性を考えることに関心をもち、主体的・協働的に器楽や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト	○		○
ワークシート	○	○	
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

※ギター、トーンチャイム、歌唱、器楽（リコーダーも含む）、鑑賞、和楽器など幅広く取り組みます。
 ※紙ファイルA4版、五線ノート8段～12段を用意してください。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	<p>○Hum With Me. ○よりよい歌声のための練習曲 ◆「アヴェ・マリア」を聴き比べよう ◎グレゴリオ聖歌「アヴェ・マリア」 ◎カミュ・サン＝サーンス ◎アントン・ブルックナー ◆史跡でたどる西洋音楽史 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆鑑賞ノート（自作）</p>	6	<p>【知】曲想と音楽の構造との関わり及びその関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。（歌唱） 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、身体を使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。（歌唱） 【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。 （鑑賞）音色、旋律、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。（歌唱） 旋律、リズム、速度、テクスチャ、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。（鑑賞）</p>
5	<p>○Review 四季の歌 さくらさくら/我は海の子/ ◆音のスケッチ① 音楽の要素を探ろう ◆作曲家年表 ◆楽典（強弱・速度・発想記号）</p>	8	<p>音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。 音色、リズム、速度、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに歌唱表現を創意工夫している。</p>
6	<p>○Core 'ngrato ○Placer d'amor ◆イタリア語に挑戦！ ◆Review of Basics③ 長音階と短音階 ◆史跡でたどる西洋音楽史</p>	8	<p>【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらの関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>
7	<p>【共通教材】 ○Deck the hall with boughs of holly ○ほたるこい ○Amazing grace</p>	8	<p>【知】様々な表現形態による歌唱（器楽）表現の固有性や多様性について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱（器楽）表現をするために必要な他者との調和を意識して歌う（演奏する）技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う（演奏する）技能を身に付け、歌唱（器楽）で表している。</p>
8	<p>○You are my sunshine □Action I</p>	4	<p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。</p>
9	<p>◆協奏曲の魅力を探ろう ◎ピアノ協奏曲第1番 小夜曲 op.11 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆史跡でたどる西洋音楽史 ◆鑑賞ノート（自作）</p>	4 4	<p>【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。 音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。【知】曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。</p>
10	<p>○Auf Flügeln des Gesanges OIch liebe dich ◆ドイツ語に挑戦！ ◆Review of Basics④ さまざまな短音階 ◆作曲家年表 ◆音楽史と史実 ◆史跡でたどる西洋音楽史</p>	8	<p>【知】曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、それらの関わりによって生みだされる表現上の効果について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p>
11	<p>○あなたはどこに ○たからもの ○大きな古時計 ○Moon river</p>	4 4	<p>【知】曲想と音楽の構造や歌詞との関わり及びその関わりによって生み出される表現上の効果、様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して歌う技能、表現形態の特徴や表現上の効果を生かして歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p>

12	<p>◆名曲プレゼンテーションⅡー演奏家と楽器が生みだす音楽の魅力ー（自作）</p> <p>◆演奏家の表現の仕方を感じ取ろう</p> <p>◎無伴奏チェロ組曲第1番 ◎ツィゴイネルワイゼン ◎ハンガリー田園幻想曲 ◎クラリネット・ソナタ第2番 ◎アダージョとアレグロ ◎ハーブ・ソナタ</p> <p>◆口絵①② 楽器の音色から広がる音楽の世界</p>	4 4	<p>【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解を深めている。</p> <p>音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを深く味わって聴いている。</p>
1	<p>※学習状況に基づいて下記【A】【B】【C】から一つを選択して学習する。</p> <p>【A】◎トゥーランドット ○Nessun dorma</p> <p>【B】◎キャッツ ○Over the rainbow</p> <p>【C】◎ニュー・シネマ・パラダイス □タイトル曲 □二人だけの映写会 □愛のテーマ</p>	4	<p>【知】 曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり及びそれらの関わりによって生みだされる表現上の効果を理解している。（歌唱）</p> <p>【知】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景との関わり、楽器の音色や奏法との関わり及びそれらの関わりによって生み出される表現上の効果を理解している。（器楽）</p> <p>【知】 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景や他の芸術との関わりについて理解を深めている。（鑑賞）</p> <p>【技】 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な曲にふさわしい発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表している。（歌唱）</p> <p>【技】 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法や身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。（器楽）</p>

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	芸術	美術Ⅱ	H	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	<p>美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を深め、生活や社会の中の美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。</p> <p>(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>				
教科書(出版社)	高校生の美術2	副教材(出版社)	なし		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教材費として5,000円程度徴収する予定である。 ・絵具等で汚れる可能性があるため、汚れてもよい上着を準備してください。 			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
制作物	○	○	○
ワークシート	○	○	○
学習観察	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

--

4 年間指導計画(評価の観点)

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション （1年の流れ、成績について 教室の使用ルール） ・マチエール・抽象画 	1 24	<p>「知」ものや情景、音楽などから感じ取った感覚や全体のイメージ、作風などで捉えることを理解している。</p> <p>「技」主題に合った絵の具などの表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。</p> <p>「発」心で捉えたイメージなどを基に、単純化や強調、色彩などの効果を考え、主題を生成し、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」目には見えないイメージの形と色彩による表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>「態表」心で捉えたイメージを表す創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」対象を単純化したり、イメージする形や色を組み合わせたりすることの効果などを見つめ、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・美術史 	10	<p>【知】形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをとらえ、さまざまな作品の歴史や表現、成り立ちなどを、全体のイメージや様式などで捉えることを理解している。</p> <p>【鑑】さまざまな作品の造形的なよさや美しさを比較しながら感じ取るとともに、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働きや、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから、生活や社会の中の美術や美術文化について考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>【主】主体的にさまざまな作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、心豊かな生き方の創造に関わる美術の働き、時代、民族、風土、宗教などによる表現の共通点や相違点などから、生活や社会の中の美術や美術文化について考えながら、鑑賞の創造的な諸活動に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・映像メディア表現 	10	<p>「知」複数の写真の組み合わせによる効果や全体のイメージ、作風などで捉えることを理解している。</p> <p>「技」主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。</p> <p>「発」複数の写真の組み合わせによる表現の効果を考え、主題を生成し、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」作者の心情や表現の意図と創造的な工夫などについて考え、表現の造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>「態表」複数の写真で表す創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」複数の写真のそれぞれの意味や役割、組み合わせによる効果などを見つめ、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・デッサン 	16	<p>「知」線や明暗による表現の効果、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。</p> <p>「技」意図に応じて鉛筆などの特性や効果を生かし表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。</p> <p>「発」対象から感じ取った印象などを基に、線や明暗による表現の効果を考えたことなどから主題を生成し、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。</p> <p>「鑑」造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。</p> <p>「態表」線や明暗による表現の効果を考え、工夫して表す創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。</p> <p>「態鑑」作品に表された線や明暗による表現の効果などを見つめ、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間まとめ、掃除 	3	

※単元の進捗状況により、単元の順序や内容変更の可能性があります。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	実用国語	F2・H	必履修・必修・選択	2
科目の 目標	<p>日常的な国語について学び、読む、書く、話す、聴く力を総合的に身につけ、基礎的な国語力の充実と自己表現力の育成を目指す。</p> <p>①知識及び技能 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)		副教材 (出版社)	パスポート国語必携 国語常識の演習と確認 五訂版 (桐原書店)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	実社会における他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養おうとしている。

(2) 評価方法

評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小テスト・課題	◎	◎	
作文・発表・グループ活動		◎	◎
学習観察			◎

3 履修上および学習上の注意

漢字検定準 2 級以上を受験することが望ましい。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	オリエンテーション （使用教材、成績の付き方）	1	
	○正しく情報を伝えよう ・他己紹介	4	【知】伝え方の方法や工夫を理解することができる。 【思】相手の情報が他者に正しく伝わるようにインタビューの仕方や紹介を工夫することができる。 【主】積極的にコミュニケーションをとり、相手をより理解しようとしている。
5	○敬語について学ぶ	5	【知】「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」を理解している。 【思】それぞれの敬語を文章に合わせて判断することができる。 【主】敬語への理解を深め、日常でも使いこなそうとしている。
6	○自己理解を深めよう ・スピーチ発表 「自分の長所と短所」	7	【知】具体的でわかりやすいスピーチ内容はどんなものか理解している。 【思】目線、声量、話すスピードなど「話す」ときに気をつけなければいけないことを意識して話している。 【主】自身を振り返り、自己理解を深めようとしている。
7	○わかりやすい文章の作り方 ・文章の整え方① ・原稿用紙の使い方 ・作文作成① 「学校生活で学んだこと」	10	【知】「話し言葉」と「書き言葉」の違いなど、わかりやすい文章の書き方を理解している。 【思】自分の考えをまとめ、相手にわかりやすい文章を考えることができる。 【主】伝えたい内容に合わせた表現を工夫しようとしている。
	○SPI対策	4	【知】「二語の関係」や「同意語・反意語、語句の意味」等を理解している。 【思】SPIの特徴を理解し、問題を早く、正確に解こうとしている。 【主】より多くの問題に触れ、問題に慣れようとしている。
8	○読みやすい文章の作り方 ・文章の整え方②	4	【知】「主述の対応」や「接続詞」等を理解している。 【思】決められたルールを使い、自分の文章に反映させようとしている。 【主】積極的に文章の表現技法を使おうとしている。
9	○インタビューをしてみよう	4	【知】インタビューをするときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】相手がより話したくなるような質問をしようとしている。 【主】相手の話に興味を持ち、積極的にインタビューしようとしている。
10	○将来について考えよう ・作文② 「十年後の自分」	5	【知】原稿用紙の使い方を理解している。 【思】比喩表現など、文章表現を豊かにする工夫をしている。 【主】将来の自分を想像し、根拠をもとにして考えようとしている。
	○模擬討論をしてみよう 「留萌地域移住プロジェクト」	5	【知】自分の考えを、根拠をもとに話そうとしている。 【思】自分なりのアイデアを持ち、他の人の意見を聞いて考えを膨らませようとしている。 【主】積極的に討論し、アイデアを深めようとしている。
11	○「聞くこと」の力をつけよう ・落語、新聞、エッセイ等	5	【知】「聞く」ときに気をつけなければいけないことを理解している。 【思】情報を正確に聞き取り、内容を理解しようとしている。 【主】リスニング教材に興味関心を持とうとしている。
12	○「書くこと」の力をつけよう ・子供の権利条約	5	【知】文章の種類によって、文章表現が変わることを理解している。 【思】「読み手」によって文章表現を変え、適した文章を書こうとしている。 【主】場面ごとの文章の書き方の違いに興味を持とうとしている。
1	○学校生活を振り返ろう ・作文作成③ 「留萌高校をもっとよい学校にするには」	5	【知】説得力のある文章の書き方を理解している。 【思】自分の考えを具体的に書き、わかりやすく説得力のある文章になるよう工夫している。 【主】自分の周りの環境の「改善点」に気づき、想像を膨らませ、「改善方法」を考えようとしている。
2			
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	保健体育科	生涯スポーツ	H	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	生涯にわたって自分自身のライフサイクルに適したスポーツを楽しみながら継続的に実施できる能力を高め、主体的・積極的に各種スポーツに取り組む態度を育てる。				
教科書(出版社)	なし	副教材(出版社)			
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	生涯にわたって運動を継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解すると共に、楽しみながら学習に取り組む力を養う
思考力・判断力・表現力等	各領域・種目特有の特性や魅力に応じた課題を発見し、合理的・計画的な課題解決の過程の中で思考し判断する力を養う
学びに向かう力・人間性等	仲間と協力して実施計画を立案し、効果的に学習を進めることができる力を養う

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
実技テスト・ノート	◎	◎	
授業活動	○	◎	◎
計画・課題解決		◎	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 単にスポーツに親しむだけではなく、仲間と協力して練習方法や戦術・戦略を考察したり、新たなルールや競技を考察したりするなど、主体的に授業を構築することを目標とする。 仲間と課題を見つけ、科学的な理解のもとに運動する習慣を身につける。 各種目でスキルテストを実施する。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4 ～ 1	年間を通して実施種目を選択	70	<p>【知】運動の合理的・計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけている</p> <p>【思】生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身につけている</p> <p>【学】運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を持つとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身につけているか</p>

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3	家庭科	フードデザイン	G2・H	選択	2
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>【知識・技能】栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>【思考・判断・表現】食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>【主体的に取り組む態度】食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	フードデザイン 家庭702 (教育図書)	副教材 (出版社)			
留意点	材料費 5,000 円徴収予定。			開講 予定人数	20人以下

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	食生活に関する諸問題に関心を持ち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技・単元テスト		○		
ワークシート			○	
学習観察				○

3 履修上および学習上の注意

調理実習を1時間で実施する。その場で作って食べて片付けまで行う。持ち帰りは認めない。
作るものは教員で課題を提示する。食べ物の好き嫌いが多い者は履修をおすすめしない。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	第1章 健康と食生活 ① 食事の意義と役割 ② 食を取り巻く現状	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の食事にどのような役割があるか理解している。 ・日本の食生活の現状と、青年期の食生活の課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割をふまえて、自らの食生活を正しく評価している。 ・日本の食生活の課題を把握し、自身の食生活について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の役割を自分ごととしてとらえ、自分の食生活を見直すようとしている。 ・青年期の食生活の特徴を自らの生活と比較し、食生活を改善しようとしている。
	第2章 栄養素と食品 ① 栄養素と消化・吸収 ② 各栄養素のはたらき ③ 食品とその特徴 ④ 何をどれだけ食べる？	1 5 7 3	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 ・食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解している。 ・ライフステージの栄養について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができている。 ・栄養素と食品の学習を結びつけ、日常の食事の改善点について考えている。 ・ライフステージによってなぜ必要とされる食事が異なるのかを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質（ミネラル）などの種類、役割について食生活と関連づけて関心を持つようとしている。 ・食品の種類と特徴についての知識を、自分や家族の健康のために活用しようとしている。 ・ライフステージにおける栄養素の特徴を知り、食事計画を活用しようとしている。
	第3章 食品の選択と取り扱い ① 食品選択のコツ ② 食品の衛生と安全 ③ 食の安全を考えて選ぶ	2 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・生鮮食品の選び方のコツを身に付けている。 ・食中毒の特徴を知り、リスクを減らす技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品を選ぶ際に、安全や衛生に配慮して適切に判断している。 ・食中毒が起こりうる状況を理解し、注意すべき場面について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で食品の表示をチェックし、食生活をより良くするために活用しようとしている。 ・食品の衛生に関心を持ち、生活に活かそうとしている。
	第4章 調理してみよう ① なぜ調理するのか ② 調理操作と調理器具	1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性、栄養性、おいしさなどの面から、調理の目的を理解している。 ・非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理操作が料理の出来上がりに与える影響を、具体的に考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調理器具の特徴としくみを理解し、具体的に使ってみようとしている。
	実践編 献立と調理	24	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事テーマを具体的に設定し、それに適した献立から、適切に食材の選択をすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事テーマに応じた食材の選択と調理方法に関心を持って取り組もうとしている。
	第5章 各国料理とコーディネート ① 料理の様式 ② テーブルコーディネート	4 4	<ul style="list-style-type: none"> ・各様式別料理の特徴や献立構成について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事のテーマに応じた色彩や照明、小物、食卓花など、食事空間の演出を判断し、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各様式別料理の献立や作法について興味を持ち、具体的に取り組もうとしている。
	第6章 食育と食育推進活動 ① 食育推進の取り組み ② 食文化を見つめる ③ 食と環境について考えよう	2 2 1	<ul style="list-style-type: none"> ・食育基本法、食育推進計画等の目的や概要を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食と生活の関わりを、郷土料理や季節などを意識しながら考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育を家庭、地域、企業はどのように推進しようとしているかに意識、関心を持ち、主体的に考えようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3	家庭科	フードデザイン	G2・H	選択	2
科目の目標	<p>家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、食生活を総合的にデザインするとともに食育を推進し、食生活の充実向上を担う職業人として必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>【知識・技能】栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。</p> <p>【思考・判断・表現】食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。</p> <p>【主体的に取り組む態度】食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</p>				
教科書 (出版社)	フードデザイン 家庭702 (教育図書)	副教材 (出版社)			
留意点	材料費 4,000 円徴収予定。			開講 予定人数	20人以下

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	食生活に関する諸問題に関心を持ち自ら学び、食育の推進に向けて、積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実技・単元テスト		○		
ワークシート			○	
学習観察				○

3 履修上および学習上の注意

調理実習を1時間で実施する。その場で作って食べて片付けまで行う。持ち帰りは認めない。
作るものは教員で課題を提示する。食べ物の好き嫌いが多い者は履修をおすすめしない。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	第1章 健康と食生活 ① 食事の意義と役割 ② 食を取り巻く現状	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の食事にどのような役割があるか理解している。 日本の食生活の現状と、青年期の食生活の課題を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割をふまえて、自らの食生活を正しく評価している。 日本の食生活の課題を把握し、自身の食生活について考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事の役割を自分ごととしてとらえ、自分の食生活を見直そうとしている。 青年期の食生活の特徴を自らの生活と比較し、食生活を改善しようとしている。
	第2章 栄養素と食品 ① 栄養素と消化・吸収 ② 各栄養素のはたらき ③ 食品とその特徴 ④ 何をどれだけ食べる？	1 5 7 3	<ul style="list-style-type: none"> 栄養素の種類と役割について、科学的に理解している。 食品の特徴、調理上の性質、調理の特徴や加工などについて理解している。 ライフステージの栄養について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> からだの中で、それぞれの栄養素がどのような働きをしているのかについてまとめたり、発表したりすることができている。 栄養素と食品の学習を結びつけ、日常の食事の改善点について考えている。 ライフステージによってなぜ必要とされる食事が異なるのかを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 炭水化物、脂質、たんぱく質、ビタミン、無機質（ミネラル）などの種類、役割について食生活と関連づけて関心を持っている。 食品の種類と特徴についての知識を、自分や家族の健康のために活用しようとしている。 ライフステージにおける栄養素の特徴を知り、食事計画を活用しようとしている。
	第3章 食品の選択と取り扱い ① 食品選択のコツ ② 食品の衛生と安全 ③ 食の安全を考えて選ぶ	2 2 1	<ul style="list-style-type: none"> 生鮮食品の選び方のコツを身に付けている。 食中毒の特徴を知り、リスクを減らす技術を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品を選ぶ際に、安全や衛生に配慮して適切に判断している。 食中毒が起こりうる状況を理解し、注意すべき場面について考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で食品の表示をチェックし、食生活をより良くするために活用しようとしている。 食品の衛生に関心を持ち、生活に活かそうとしている。
	第4章 調理してみよう ① なぜ調理するのか ② 調理操作と調理器具	1 2	<ul style="list-style-type: none"> 安全性、栄養性、おいしさなどの面から、調理の目的を理解している。 非加熱調理と加熱操作の種類とそれぞれの特徴を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理操作が料理の出来上がりに与える影響を、具体的に考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 調理器具の特徴としくみを理解し、具体的に使ってみようとしている。
	実践編 献立と調理	24	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面と安全に配慮した食品の取り扱いと、調理操作を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事テーマを具体的に設定し、それに適した献立から、適切に食材の選択をすることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事テーマに応じた食材の選択と調理方法に関心を持って取り組もうとしている。
	第5章 各国料理とコーディネート ① 料理の様式 ② テーブルコーディネート	4 4	<ul style="list-style-type: none"> 各様式別料理の特徴や献立構成について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 食事のテーマに応じた色彩や照明、小物、食卓花など、食事空間の演出を判断し、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 各様式別料理の献立や作法について興味を持ち、具体的に取り組もうとしている。
	第6章 食育と食育推進活動 ① 食育推進の取り組み ② 食文化を見つめる ③ 食と環境について考えよう	2 2 1	<ul style="list-style-type: none"> 食育基本法、食育推進計画等の目的や概要を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 食と生活の関わりを、郷土料理や季節などを意識しながら考察している。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育を家庭、地域、企業はどのように推進しようとしているかに意識、関心を持ち、主体的に考えようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	公民科	倫理	F・I	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目標	<p>人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の倫理、社会、文化などに関わる諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者として必要な公民としての資質・能力を養う。</p> <p>自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を養う。</p>				
教科書 (出版社)	高等学校新倫理新訂版 (清水書院)	副教材 (出版社)	テオリア最新倫理資料集 (第一学習社)		
留意点	選択Fと選択Iにある倫理を同時履修することはできません。		開講 予定人数	特になし	

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解しているか。また、諸資料から人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取っているか。
思考・判断・表現	自己の生き方を見つめ直し、自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現しているか。
主体的に学習に取り組む態度	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしていたりしているか。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
ワークシート	◎	○	◎
学習観察	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・大学入学共通テストを中心とした大学入試に対応できる力をつける。 ・自らの課題として取り組む主体性が必要な科目である。
--

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
	第1編 現代を生きる自己の課題 第1章 個性的な主体としての自己 第2章 心と行動をめぐる探究	6	【知】 パーソナリティに関するさまざまな理論や欲求、感情、認知、発達に関するさまざまな心理学的な知見を理解し、個性や人間の行動を多面的・多角的に説明することができる。 【思】 個性や行動の原因、意欲、動機づけ、知覚、学習、記憶、問題解決、推論、道徳的判断、発達などに関する心理学的な知見から、人間存在及び他者と共によりよく生きる自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。
	第2編 人間としての自覚 第1章 哲学の始源：ギリシア思想 第2章 唯一神の宗教：キリスト教・イスラーム教 第3章 東洋思想の源流：仏教・儒教 第4章 芸術と倫理	14	【主】 パーソナリティやさまざまな心の在り方に関する理論を手がかりにして、自己の課題や人間としての在り方生き方について主体的に追究しようとしている。 【知】 古代ギリシア、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム教、仏教、儒教、道家に関する諸概念を、原典資料から適切に読み取り、理解を深めることができる。それらの諸概念を自己の課題と結び付けて説明することができる。 【思】 人間存在及び他者と共によりよく生きる自己の生き方についての考察を深め、適切に表現することができる。 【主】 人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究しようとしている。
	第3編 現代をかたちづくる倫理 第1章 近代の成立 第2章 世界と人間をめぐる探究	20	【知】 西洋思想家の基本的な知識を身に付けている。それらの思想家の原典資料を適切に読み取ることができる。 【思】 西洋思想の具体的な事例を通して、社会と人間の在り方や世界と人間の在り方を考察し、よりよく生きていくために何が重要かについて思索を深め、適切に表現できる。 【主】 西洋思想に関わる事象や課題について、自己の人生観や人間観と結び付けて主体的に追究しようとしている。
	第4編 国際社会に生きる日本人としての自覚 第1章 日本の風土と精神文化 第2章 日本の近代化と人々の生き方	20	【知】 日本の伝統思想や思想家の基本的な知識を、原典資料を適切に読み取り、説明することができる。 【思】 日本の伝統思想、近世の思想を通して、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について、多面的・多角的に考察し、適切に表現できる。 【主】 国際社会における日本人としての在り方生き方の自覚を深めることで、日本人として主体的に生きていくために必要な能力を身に付けようとしている。
	第5編 現代における諸課題の探究 第1章 自然や科学技術をめぐる諸課題 第2章 社会や文化にかかわる諸課題	4	【知】 自然や科学技術との関わり、他者との協働、共生に向けた倫理的課題に対して、その解決に向けて、これまでの学習を通して身に付けた倫理に関する概念や理論を適切に活用できる。 【思】 人間との関わり、福祉、文化と宗教、平和などについての倫理的課題を見だし、協働、ケア、共生、異文化理解、人類全体の福祉などに着目して、多面的・多角的に考察し、公正に判断して構想し、自分の考えを説明、論述できる。 【主】 人間との関わり、倫理的課題の倫理的課題の探究を通して、多様な他者との対話を通して、人格の完成に向けて自己の生き方を確立しようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	公民	政治・経済	F2・I	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	<p>社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次の通り育成することを目指す。</p> <p>(1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。</p> <p>(3) よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。</p>				
教科書(出版社)	政治・経済(東京書籍)	副教材(出版社)	最新図説 政経(浜島書店)		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・2年次に本科目を履修した者は選択できない。 ・四年制大学進学希望者は履修が望ましい 			開講 予定人数	特になし

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	現代の諸課題の解決に向けて探究する手掛かりとなる概念や理論などについて理解しているとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や概念・理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し説明しているとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想・議論を行って公正に判断し合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしているとともに、積極的な役割を果たそうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・単元テスト	○	○	
振り返りシート			○
休業等課題	○	○	
グループ/ペアワーク(ワークシート)	○	○	○

3 履修上および学習上の注意

<p>よりよい社会を形成するためには、過去から現在の諸課題を理解するとともに、社会とそれを構成する人間について多面的・多角的に思いを巡らせることが必要です。また、諸課題の解決のためには、合意形成が欠かせず、自分の考えと他者の考えの違いを踏まえて適切に表現する技能も必要です。まず、世の中に対して興味を持ってください。ネットニュースでも新聞でもTVでもかまいません。世の中を知ることが、人を知ることであり、社会をつくる基礎力です。</p>
--

4 年間指導計画（評価の観点）

…知識・技能 …思考・判断・表現 …主体的に学習に取り組む態度

月	学習内容（单元名）	時数	評価の観点
4	1 民主政治の基本原則	7	【国の政治制度はどのようにつくられているのだろうか】 意思決定としての政治の在り方、法概念、自然権と社会契約、人権の広がり、各国の政治制度の違いを理解しまとめることができる。 意思決定手段としての政治の在り方について考えることができる。 政治課題について解決しようとするすることができる。
5	2 日本国憲法の基本原則	6	【憲法と暮らしの関わりはどのようなものだろうか】 憲法制定過程、三大基本原則、改憲論議について理解しまとめることができる。 憲法制定の過程や改憲論議等の諸課題について考えをまとめ表現できる。 憲法の課題と生活課題を結びつけようとするすることができる。
6	3 日本の政治機構	7	【日本の国家・地方運営の課題は何だろうか】 三権機関と地方自治について理解しまとめることができる。 三権機関と地方自治について課題と解決策を考え表現できる。 政治課題について自分事と捉えようとするすることができる。
7	4 現代政治の特質と課題	8	【私たちは政治とどのように関わることができるだろうか】 行政機能の拡大、選挙制度、世論形成について理解しまとめることができる。 行政や民主主義制度の課題について考えをまとめ表現できる。 民主主義における投票の意義を考えようとするすることができる。
8			
9	5 国際政治のしくみと日本	7	【国際社会で日本が果たす役割はなんだろうか】 国際連合、冷戦と影響、日本の領土問題について理解する。 国際社会における日本の役割を考えることができる。 国際社会で自分が果たす役割を考えようとするすることができる。
10	6 現代経済のしくみ	22	【経済とわれわれの暮らしはどう関わるだろうか】 マクロ経済的概念（トレードオフ、国際分業、市場の役割、物価と景気変動、為替、金融と財政など）について理解することができる。 マクロ経済政策と政治政策の関連性を考えることができる。 諸概念を経済行動と結びつけようとするすることができる。
11			
12	7 日本経済の発展と現状	5	【日本経済の課題は何だろうか】 戦後の日本経済史と現在の経済政策を理解し現状や課題をまとめることができる。 現在の経済政策が経済史との関連性があることを考えることができる。 日本経済の現状と課題について考えようとするすることができる。
1			
2	8 福祉社会と日本経済の課題	8	【幸せな暮らしのために必要なことは何だろうか】 労働問題、社会保障、中小企業、環境行政、消費者問題、農業政策について理解することができる。 諸政策が暮らしにもたらす影響を考え、安心した生活とは何か意見をもち表現することができる。 暮らしと行政の関わりを考え行動しようとする態度をもち続けようとするすることができる。
3			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	国語	発展古典	I	必履修・必修・選択	2
科目の目標	<p>より幅広い時代や多くのジャンルの作品を通して古典の読解力を高め、日本の文化に対する理解を深める。</p> <p>①知識・及び技能 古文や漢文の読解に必要な文法や句法、語句の知識・技能を身に付けるようにする。</p> <p>②思考、判断、表現 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、古典を論理的に読解し、適切に論述する力を身に付けるようにする。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 古典作品の読解や演習を通じ、言葉や先人のものの見方、感じ方、考え方への理解を深めようと粘り強く取り組み、自己の古典読解への知識・技能、思考・判断・表現力等の向上に振り返りを通じて意欲的に取り組もうとする。</p>				
教科書 (出版社)	なし	副教材 (出版社)	四訂版大学入学共通テスト実践演習古文・漢文編 (数研出版)		
留意点	<p>○主に大学入学共通テストの受験希望者を対象に、より高度な古文・漢文の学習をします。</p> <p>○2・3年次に「古典探究」を選択することが望ましい。</p>			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	古文や漢文の読解に必要な文法や句法、語句の知識・技能を身に付けようとしている。
思考・判断・表現	古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、古典を論理的に読解し、適切に論述する力を身に付けようとしている。
主体的に学習に取り組む態度	古典作品の読解や演習を通じ、言葉や先人のものの見方、感じ方、考え方への理解を深めようと粘り強く取り組み、自己の古典読解への知識・技能、思考・判断・表現力等の向上に振り返りを通じて意欲的に取り組もうとしている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法			
定期考査・小テスト	◎	◎	○
授業での活動	○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・文法や句法、単語については、積極的に学習し、身に付けてください。 ・古典作品の文学史の知識や内容について、授業で扱ったものを中心に調べたり現代語訳されたものを読んだりして自ら深めていけるよう興味や関心を持って取り組むよう心掛けましょう。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	①オリエンテーション ②古文『桂園遺文』	6	②【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えること 【主】筆者の論理を理解し、説かれている内容を読み取ろうとする
5	③古文『三国伝記』 古文『鈴屋集』 古文『西行上人談抄』『梅尾明恵上人伝記』	8	③【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解する 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える 【主】時代背景を読み取りながら、内容を読み味わう
6	④古文『いはでしのぶ』『源氏物語』 古文『十訓抄』 古文『松浦宮物語』	8	④【知】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解する 【思】古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりすること 【主】自分なりの解釈をもって読み深め、考察を共有し合う
7	⑤古文『狭衣物語』 古文『とはずがたり』 古文『栄花物語』	10	⑤【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉える 【主】作品の特徴を踏まえながら、内容の理解を深めようとする
8	⑥漢文『課女』『蒙求』 漢文『孟子』『講孟割記』 漢文『世範』	8	⑥【知】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解する 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】時代背景や人物の理解から、作品の意図や内容を味わおうとする
9	⑦漢文『三体詩素隠抄』『黄鶴楼』 漢文『無溪筆談』 漢文『潜研堂文集』	8	⑦【知】古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解する 【思】古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結びつけ、考えを広げたり深めたりすること 【主】歴史的背景、世界観を楽しみ、読み物としての面白さについて着眼しようとする
10	⑧漢文『莊子』『日喻』 漢文『論語』『論語集注』	6	⑧【知】古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語彙を増やし、語感を豊かにする 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】古代中国の思想と歴史的背景を理解したうえで読もうとする
11	⑨漢文『鉄田山叢談』	6	⑨【知】古典の作品や文章の種類とその特徴について理解する 【思】古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること 【主】歴史的な背景を理解し、成立背景などから古代中国の物語を楽しもうとする
12	⑩漢文『三国志』	4	⑩【知】古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解する 【思】作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察する 【主】歴史的背景や人物を理解しながら、内容を読み味わおうとする

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	理科	ステップアップ地学	I	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に起こる地学的事象を柔軟に取り上げながら、地球や地球を取り巻く環境への興味・関心をさらに高めるとともに、観察、実験などと既習の知識を関連づけて多面的に考察・探究することのできる能力や態度を育てる。 太陽系惑星の中で唯一、大気と水が奇跡的に存在している地球の素晴らしさを改めて考え、地球科学的な見方と考え方を身に付けさせる。 				
教科書 (出版社)	2年次に使用した教科書	副教材 (出版社)	改訂版 チェック&演習 地学基礎 (数研出版)		
留意点				開 講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	地球や太陽系、宇宙の構造や成立過程を理解した上で、地殻変動や気象現象などの地学的な自然現象を科学的にとらえる。
思考・判断・表現	地学的な事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	地学的な事物・現象に関する観察・実験などを通して、それらの過程や結果を的確に整理し、自然の事物・現象を探究しようとしている。

(2) 評価方法

観点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・小テスト	◎	○	
レポート	○	◎	○
提出物・授業態度			◎

3 履修上および学習上の注意

- 大学入学共通テストを中心とした大学入試にも対応できる学力を身につけます。
- ※2年次の必修選択科目「地学基礎」を履修していなければ選択できません。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1 活動する地球	14	<ul style="list-style-type: none"> 地球の構造について理解した上で、地殻変動や火山活動などの自然現象のしくみの考えを深める。 岩石の組成からその成り立ちや性質を判断でき、火山の性質を考察できる。
5	2 移り変わる地球	13	<ul style="list-style-type: none"> 地球環境と生物の変遷を理解する。 古生物の化石から、地質時代や当時の環境を推察できる。 地層から、当時の環境やその後の変遷を推察できる。
6			<ul style="list-style-type: none"> 現在の大気の組成や鉄鉱石の成り立ちが、生物による環境形成作用によるものであることを理解する。
7	3 大気と海洋	11	<ul style="list-style-type: none"> 地球の大気の層構造と、その性質の成り立ちや自然現象を理解する。 海洋の層構造、海流やエルニーニョなどの現象を説明できる。 海水の大循環のしくみを説明できる。
8			<ul style="list-style-type: none"> 地球全体の熱収支の平衡を理解する。 ハドレー循環や海流から、世界の地理的な気候区分を説明できる。
9			<ul style="list-style-type: none"> 日本周辺の季節ごとの気象現象に対する理解を深め、説明できる。
10	4 地球の環境	10	<ul style="list-style-type: none"> 気候の自然変動を理解する。 人間活動による環境変化の実態例とその原因を説明できる。 日本の自然環境と特有の災害を理解している。
11	5 太陽系と宇宙	8	<ul style="list-style-type: none"> 宇宙の形成過程の理解を深めている。 太陽系とその天体の特徴や形成過程への理解を深めている。
12	6 総復習	8	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	理科	ステップアップ化学	I	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目標	日常生活や社会との関連を図りながら、観察・実験を行うことで、化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の理解を深めさせるとともに、化学を探究する能力や態度を育てる。				
教科書 (出版社)	改訂版 化学基礎 (数研出版) ※1年次に使用したものを使う。	副教材 (出版社)	チェック&演習 化学基礎 (数研出版)		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 化学基礎全般についての知識、実験における基本操作を身につけた。 実験結果のデータ処理やグラフ化について理解している。
思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> 化学基礎全般についての知識を使い、思考する力を身につけた。 実験を理解し、論述やレポートをまとめる力を身につけた。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> 実験や演習を通して、化学基礎全般についての理解しようと主体的に取り組む。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	○	
ワークシート		○	◎	◎
学習観察			○	◎

3 履修上および学習上の注意

- 大学入学共通テストを中心とした大学入試にも対応できる学力を身につける。
- ※「化学基礎」に対応した内容です。「化学」には対応していません。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	1 物質の構成 (1) 物質の構成 ア 物質の分離と精製 イ 物質の元素 ウ 物質の三態と熱運動	2 2 2	・分離・精製、成分元素の検出実験および三態変化と熱運動の関係から物質の性質について理解する。
5	(2) 物質の構成粒子 ア 原子の構造と電子配置 イ 元素の周期律と元素の性質	2 2	・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質、周期律について理解する。
6	2 物質と化学結合 (1) イオンとイオン結合 ア イオン結合 イ イオンからなる物質	2 2	・イオンの生成を電子配置と関連付け、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質について理解する。
7	(2) 分子と共有結合 ア 共有結合 イ 分子からなる物質	2 2	・共有結合を電子配置と関連付け、分子からなる物質の性質について理解する。
7	(3) 金属と金属結合 ア 金属結合 イ 金属結合からなる物質	2 2	・金属の結合や性質を自由電子と関連付けて理解する。 ・結晶格子について理解する。
8	3 物質の変化 (1) 物質量と化学反応式 ア 原子量、分子量、式量	5	・物質量と粒子数、質量、気体の体積、水溶液の濃度との関係について理解する。 ・化学反応に関与する物質とその量的関係について理解する。
9	イ 物質量 ウ 溶液の濃度 エ 化学反応式と量的関係	5 2 5	
10	(2) 酸と塩基 ア 酸と塩基 イ 水素イオン濃度と物質量	3 5	
11	ウ 中和と塩	5	
12	(3) 酸化還元反応 ア 酸化と還元 イ 酸化剤・還元剤 ウ 金属のイオン化傾向と反応性	3 3 3	・酸化と還元が電子の授受によることや酸化還元反応の応用として電池や電気分解について理解する。
1	エ 電池と電気分解	3	
	演習		

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	公民科	時事問題研究	I	選択	2
科目の目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するために、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けようとする。 (2) 現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 (3) 現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成により積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。				
教科書(出版社)	政治・経済 (東京書籍)	副教材 (出版社)	最新図説 政経 (浜島書店)		
留意点	選択Fと選択Iにある時事問題研究を同時履修することはできません。		開講 予定人数	特になし	

2 評価

(1) 評価の観点

観点	趣旨
知識・技能	現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる。
思考・判断・表現	現代の諸課題について、事実を基に概念などを多面的・多角的に考察するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想・議論を行って公正に判断し合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	国家及び社会の形成者として、より良い社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

(2) 評価方法

評価方法	観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査・小テスト		◎	◎	○
ワークシート		◎	○	◎
学習観察		○	◎	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> 特に経済分野についての学習を中心に行う。 大学進学者対象の授業であるが、就職・公務員希望の生徒でも選択可能である。
--

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1編 現代日本の政治と経済 第2章 現代日本の経済 1節 現代の資本主義経済	4	《知識・技能》 ・現代日本の政治と経済、グローバル化する国際社会の諸課題について、現実社会の諸事象を通して理解を深めている。 ・現代日本の政治と経済、グローバル化する国際社会に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめている。
5	2節 現代経済のしくみ	11	
6	3節 日本経済の発展と現状	4	
7	4節 福祉社会と日本経済の課題	12	
8	第3章 現代日本の諸課題	4	
9	第2編 グローバル化する国際社会 第1章 現代の国際政治 1節 国際政治のしくみ	4	
10	2節 複雑化する国際政治と日本	8	
11	第2章 現代の国際経済 1節 国民経済と国際経済	8	
12	2節 世界経済の現状と課題	5	
1	第3章 国際社会の諸課題	4	
			《主体的に学習に取り組む態度》 ・現代日本の政治と経済、グローバル化する国際社会について、よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとしている。

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	数学	数学B	I	必履修・必修・ 選択	2
科目の目標	数列、統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
教科書(出版社)	新編 数学B (数研出版)	副教材(出版社)	教科書傍用 3 T R I A L 数学B (数研出版)		
留意点	数学I・II・Aの復習を行うこと。			開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数理化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。
思考・判断・表現	離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

(2) 評価方法

観 点 評価方法	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
定期考査・単元テスト 小テスト	◎	◎	
ワークシート 授業中の発言・発表	○	◎	○
授業への取組姿勢 週末課題 長期休業中の課題	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・「教科書傍用 3 T R I A L 数学B」を、家庭学習（予習・復習）で活用する。 ・副教材を課題として提示するので、計画的に学習を進めること。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	第1章 数列		
5	第1節 等差数列と等比数列	14	<p>【知】等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。</p> <p>【思】事象から離散的な変化を見だし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
6	【前期中間考査】	1	
7	第2節 いろいろな数列	15	<p>【知】いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。また、数学的帰納法について理解することができる。</p> <p>【思】事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができる。また、自然数の性質などを見だし、それらについて数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
8			
9	【前期期末考査】	1	
10	第2章 確率分布と統計的な推測		
	第1節 確率分布	18	<p>【知】標本調査の考え方について理解を深めることができる。確率変数と確率分布について理解することができる。二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。</p> <p>【思】確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
11			
	【後期中間考査】	1	
12	第2節 統計的な推測	14	<p>【知】正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。</p> <p>【思】目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。</p> <p>【主】粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとしている。</p>
1			

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3学年	理科	医療問題研究	I	選択	2
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、医療問題に対する理解を深めさせるとともに、目的意識を持って発表や討論などを行い、医療問題について科学的に探究する能力や態度を育てる。				
教科書（出版社）	使用せず	副教材（出版社）	使用せず		
留意点				開講 予定人数	

2 評価

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	医療における諸問題に関する基本的な概念や原理・法則について理解を深め、知識を身に付けている。
思考・判断・表現	現代医療の諸問題について課題を見いだすとともに、探究する過程を通して事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
主体的に学習に取り組む態度	現代医療の現状や諸問題と様々な医療技術について関心や探究心をもち、主体的に探究しようとするとともに科学的態度を身に付けている。

(2) 評価方法

観 点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	◎	○	○
学習観察	○	○	◎

3 履修上および学習上の注意

医療問題における様々な課題や問題を自ら考え、テーマを決定し、発表原稿や発表スライドの作成を一年間かけて作成する。通常の授業とは内容が大きく異なるので、医療に対するしっかりとした問題意識を持った生徒でないとう単位習得が困難な科目です。

4 年間指導計画（単元の目標と評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	研究テーマの決定	4	自身の興味に基づいて疾病や医療、病院環境など一年間を通して調べる研究テーマを決定する【主】
5	前期中間考査 原稿・スライド作成	1 7	医療や地域、北海道などの問題に関して作文を課して評価する【知技】 テーマ決定後、発表原稿を作成する【思判表・技・主】
6	原稿・スライド作成	8	
7	原稿・スライド作成	6	
8	原稿・スライド作成	4	
9	原稿・スライド作成	8	中間発表の発表原稿および発表スライドの出来映えによって評価する【思判表・技・主】
10	中間発表 原稿・スライド作成	1 7	
11	原稿・スライド作成	8	
12	原稿・スライド作成	6	本発表の発表原稿および発表スライドの出来映えによって評価する【思判表・技・主】
1	原稿・スライド作成 本発表	3 1	

1 科目の概要

学年・年次	教科	科目	選択	区分	単位数
3年次	家庭	保育基礎	F1・I	必履修・必修・ 選択	2
科目の 目 標	家庭基礎の学習を基に、乳幼児の生活と保育などに関する知識や技術をさらに深め、それを家庭や地域で活用する能力や態度を身につける。 (1) 保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとする。 (2) 子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) 子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
教科書 (出版社)	保育基礎 家庭 311 (実教出版)	副教材 (出版社)			
留意点	実習費 2,500 円徴収予定。			開 講 予定人数	15 人以下

2 評価の方法

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
知識・技能	保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子供の福祉と文化などについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけようとする。
思考・判断・表現	子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	子どもの健やかな発達を目指して自ら学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

(2) 評価方法

評価方法	観点 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
実技・単元テスト	○	○	
ワークシート	○	○	○
学習観察		○	○

3 履修上および学習上の注意

<ul style="list-style-type: none"> ・保育園実習を行う予定です。子どもと積極的に関わる姿勢を持って授業に挑んで下さい。

4 年間指導計画（評価の観点）

月	学習内容（単元名）	時数	評価の観点
4	オリエンテーション	1	
	1 子どもの発達の特徴	6	<ul style="list-style-type: none"> 生涯発達における乳幼児期について、基本的な発達の特徴と心身の様々な機能の発達について理解している。
5	2 子どもの発達の過程	7	
	3 子どもの生活		
6	①生活と養護	5	<ul style="list-style-type: none"> 子供の生活と養護について理解し、適切な生活習慣の形成や健康と安全管理に関する保育の技術を身につけている。
7	②子どもの遊び	17	
8			<ul style="list-style-type: none"> 子供の文化、遊びと表現活動について理解し、関連する技術を身につけている。
9	③生活習慣の形成	2	
10	④健康管理と事故防止	2	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣の意義と重要性について理解している。
11	・保育園実習事前指導	2	<ul style="list-style-type: none"> 子供の事故防止と積極的な安全教育の必要性を理解している。
12	・保育園実習	4	
1	4 子どもの保育	15	<ul style="list-style-type: none"> 保育の意義と方法、保育の環境の特徴と役割について理解している。
	5 子どもの福祉	2	<ul style="list-style-type: none"> 児童観の変遷や児童福祉の理念と制度について理解している。